

# 小規模企業景気動向調査 [2024年10月期調査]

## ～最低賃金引上げの影響が出始めた小規模企業景況～

### <産業全体>

10月期の産業全体の景況は、採算・資金繰りDIがわずかに低下し、業況DIは小幅に低下した。多くの業種において、徐々にではあるが価格転嫁を進められていることが、売上額DIの低下が抑えられた要因としてあげられる。他方で、最低賃金の引上げにより、パート従業員の内、配偶者控除の範囲内で就業している方々の労働時間が減少することで、人手不足が深刻化することを懸念するコメントが複数の業種で見られた。

	DI	9月	10月	前月比
売上額		4.7	4.3	▲0.4
採算	▲	15.6	16.6	▲1.0
資金繰り	▲	12.2	14.1	▲1.9
業況	▲	10.5	13.2	▲2.7

### <製造業(食料品、繊維、機械・金属)>最低賃金引上げの影響が大きい製造業

製造業は、採算・業況DIがわずかに低下し、資金繰りDIは小幅に低下した。

食料品・繊維・機械・金属関連の全業種において、資金繰り・業況DIが低下した。製造業は、他業種と比較して、最低賃金の改定に伴う人件費の増加に関して言及するコメントが最も多く、影響の大きさが窺える。賃上げの傾向は、今後も継続する可能性が高いことから、業務効率化や価格交渉への取り組みの重要性がより一層高まっている。

	DI	9月	10月	前月比
売上額		3.6	4.0	0.4
採算	▲	18.7	19.6	▲0.9
資金繰り	▲	14.0	16.4	▲2.4
業況	▲	14.2	15.8	▲1.6

### <建設業>比較的堅調な受注に下支えされているものの、業況DIが悪化した建設業

建設業は、採算・資金繰りDIがわずかに低下し、業況DIは小幅に低下した。

前月と同様に、受注量は堅調だが、資材等の高騰や最低賃金の引上げによって採算が悪化しているとのコメントが多かった。長期的な課題である人手不足については、労働環境の見直しや賃金引上げなどを実施しても、人材が確保できない厳しい状況である。この状況を改善するには、他業種と比較して遅れているITを活用した業務効率化に、業界全体で取り組むことが必要不可欠であるとのコメントもあった。

	DI	9月	10月	前月比
売上額		11.3	11.3	0.0
採算	▲	11.4	13.2	▲1.8
資金繰り	▲	11.4	11.9	▲0.5
業況	▲	7.2	9.9	▲2.7

### <小売業(衣料品、食料品、耐久消費財)>高まる節約志向の中で、売上額DIは現状を維持した小売業

小売業は、採算・資金繰り・業況DIが小幅に低下した。

食料品関連は、全DIが低下した。10月からの価格改定により値上がりした商品が多く、買い控えが発生した。また、米不足は解消に向かっているが、仕入れ単価は変わらず高止まりしている状況である。衣料品関連は、売上額DIがわずかに上昇した。季節の切り替わりから売上が伸びた事業者が多かった。耐久消費財関連は、消費者の節約意識の影響を強く受けているが、大手にはないアフターサービス等を実施して売上を維持している。

	DI	9月	10月	前月比
売上額	▲	2.5	2.4	0.1
採算	▲	20.4	22.5	▲2.1
資金繰り	▲	15.6	18.9	▲3.3
業況	▲	17.1	20.2	▲3.1

### <サービス業(旅館、クリーニング、理・美容)>一部の需要は回復するも、足踏み状態が続くサービス業

サービス業は、売上額・業況DIが小幅に低下し、資金繰りDIはわずかに低下した。

採算DIはわずかに上昇した。

旅館関連は、行楽シーズンによる好況から、売上額・採算DIが上昇した。クリーニング関連は、個人客のクリーニング需要の落ち込みから、前月に引き続き全DIが低下した。理・美容関連は、売上額・業況DIが低下した。節約志向が高まる中、固定客に来店頻度・顧客単価を維持してもらうための取り組みが重要である。

	DI	9月	10月	前月比
売上額		6.5	4.2	▲2.3
採算	▲	12.0	11.1	0.9
資金繰り	▲	7.7	9.3	▲1.6
業況	▲	3.3	7.0	▲3.7

### 調査概要

・調査対象：全国303商工会の経営指導員(有効回答数：229/回答率75.6%)

・調査時点：2024年10月末

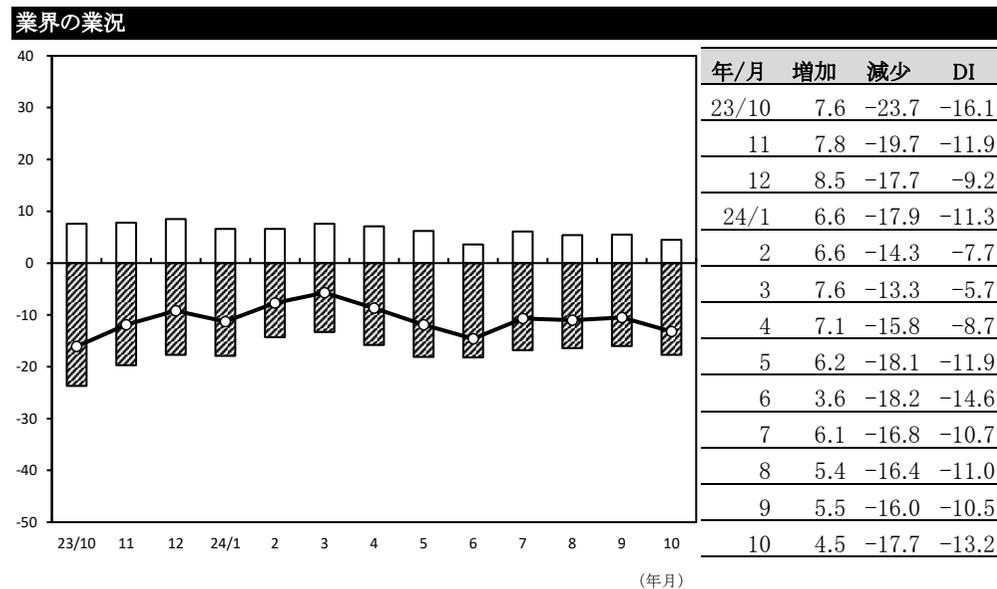
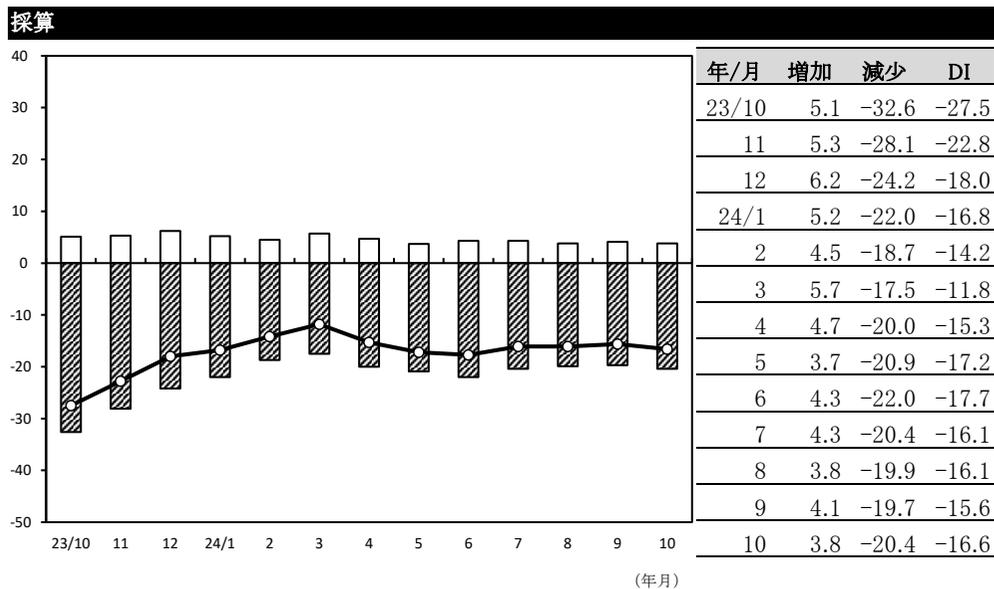
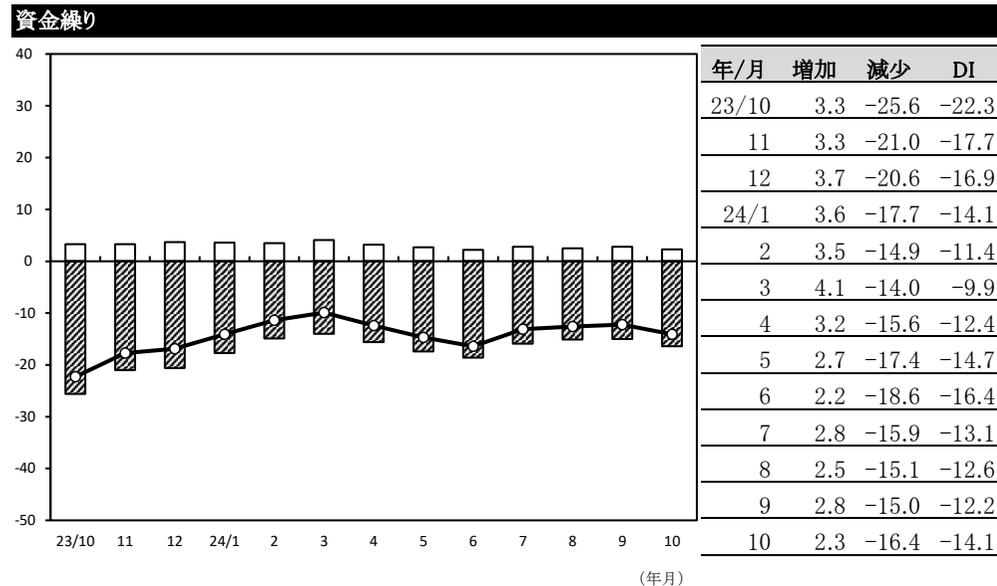
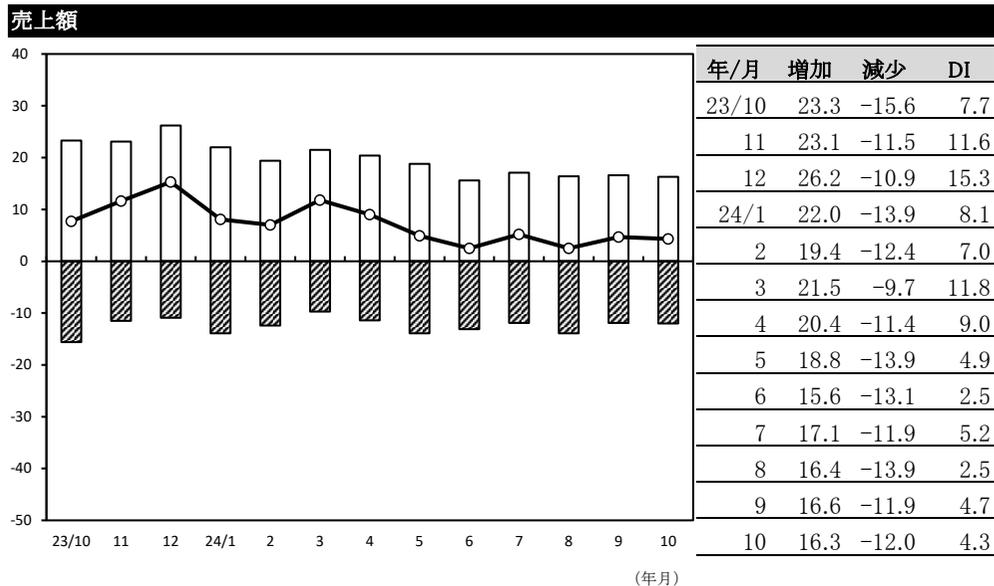
・調査方法：対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。



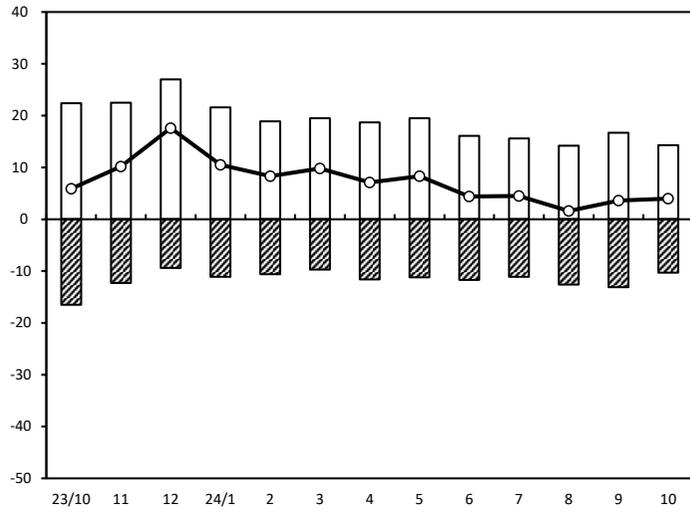
# 小規模企業景気動向調査(2024年10月期)

## 産業全体(前年同月比)



## 製 造 業(前年同月比)

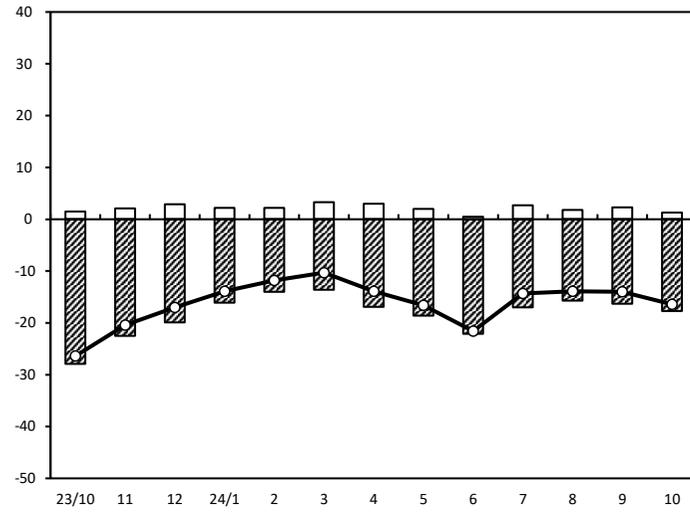
### 売上額



年/月	増加	減少	DI
23/10	22.4	-16.5	5.9
11	22.5	-12.3	10.2
12	27.0	-9.4	17.6
24/1	21.6	-11.1	10.5
2	18.9	-10.6	8.3
3	19.5	-9.7	9.8
4	18.7	-11.6	7.1
5	19.5	-11.2	8.3
6	16.1	-11.7	4.4
7	15.6	-11.1	4.5
8	14.2	-12.6	1.6
9	16.7	-13.1	3.6
10	14.3	-10.3	4.0

(年月)

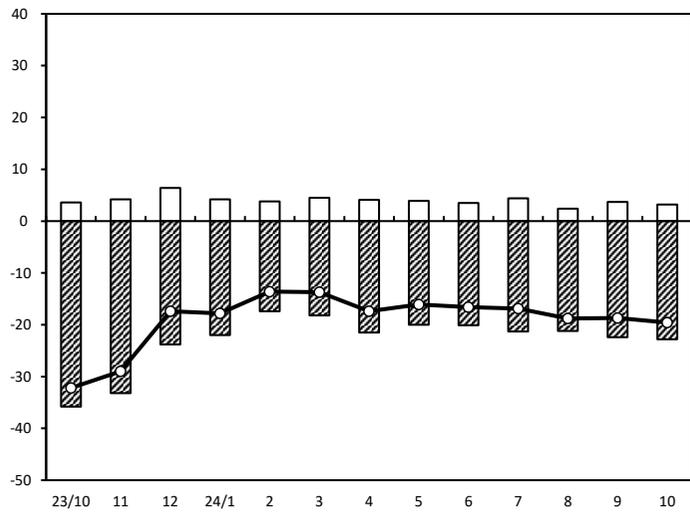
### 資金繰り



年/月	増加	減少	DI
23/10	1.5	-27.9	-26.4
11	2.1	-22.5	-20.4
12	2.9	-19.9	-17.0
24/1	2.2	-16.1	-13.9
2	2.2	-14.0	-11.8
3	3.3	-13.6	-10.3
4	3.0	-16.9	-13.9
5	2.0	-18.6	-16.6
6	0.5	-22.1	-21.6
7	2.7	-17.0	-14.3
8	1.8	-15.7	-13.9
9	2.3	-16.3	-14.0
10	1.3	-17.7	-16.4

(年月)

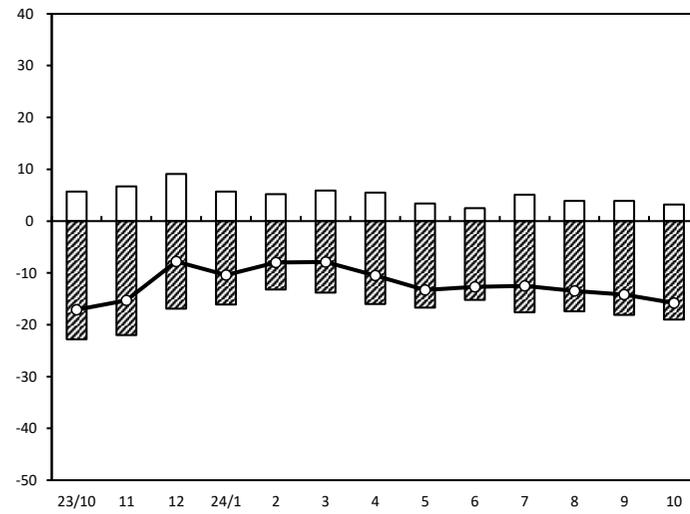
### 採算



年/月	増加	減少	DI
23/10	3.6	-35.8	-32.2
11	4.2	-33.2	-29.0
12	6.4	-23.8	-17.4
24/1	4.2	-22.0	-17.8
2	3.8	-17.4	-13.6
3	4.5	-18.2	-13.7
4	4.1	-21.5	-17.4
5	3.9	-20.0	-16.1
6	3.5	-20.1	-16.6
7	4.4	-21.3	-16.9
8	2.4	-21.2	-18.8
9	3.7	-22.4	-18.7
10	3.2	-22.8	-19.6

(年月)

### 業界の業況

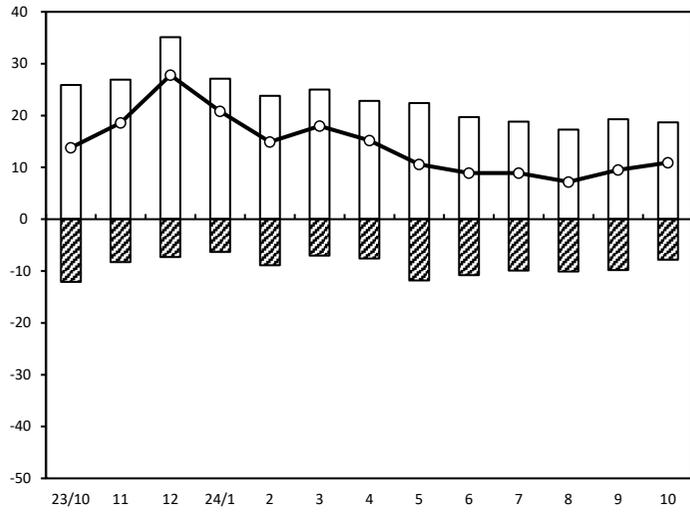


年/月	増加	減少	DI
23/10	5.7	-22.8	-17.1
11	6.7	-22.0	-15.3
12	9.1	-16.9	-7.8
24/1	5.7	-16.1	-10.4
2	5.2	-13.2	-8.0
3	5.9	-13.8	-7.9
4	5.5	-16.0	-10.5
5	3.4	-16.7	-13.3
6	2.5	-15.2	-12.7
7	5.1	-17.6	-12.5
8	3.9	-17.4	-13.5
9	3.9	-18.1	-14.2
10	3.2	-19.0	-15.8

(年月)

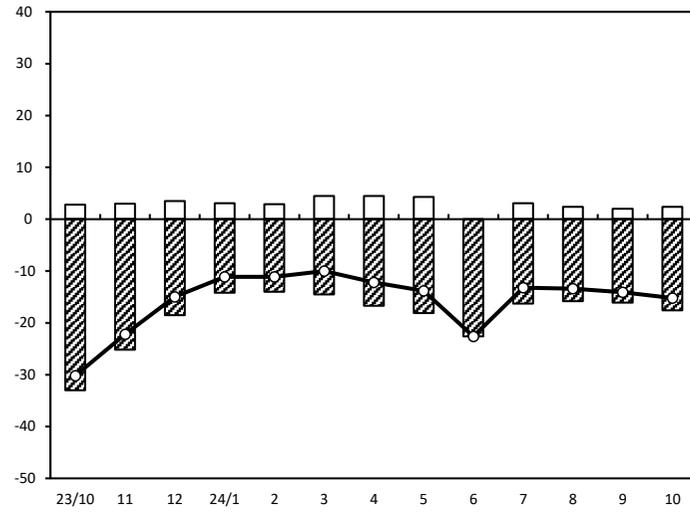
# 製造業【食料品】（前年同月比）

## 売上額



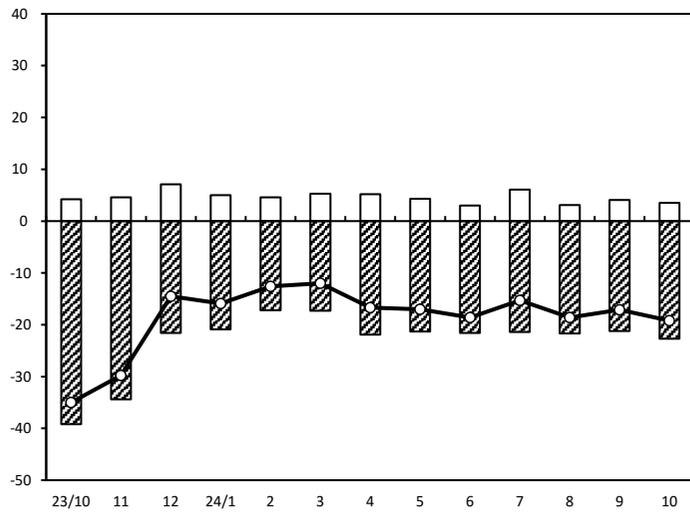
(年月)

## 資金繰り



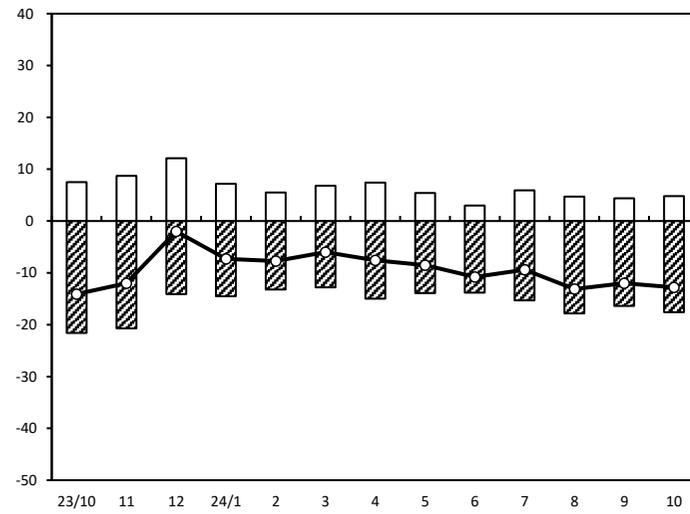
(年月)

## 採算



(年月)

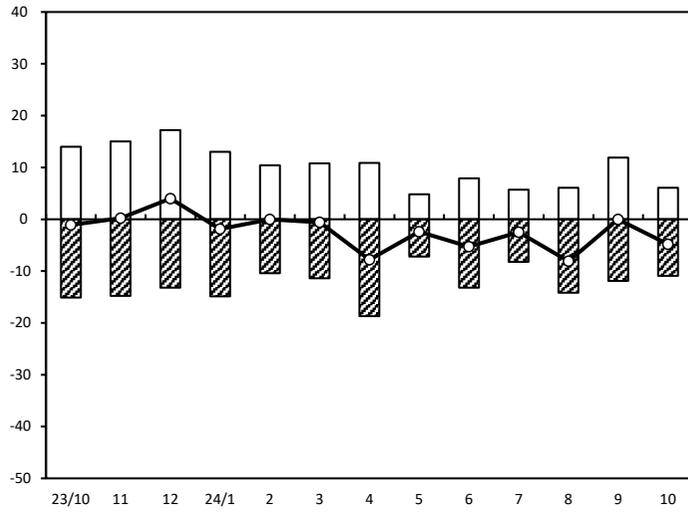
## 業界の業況



(年月)

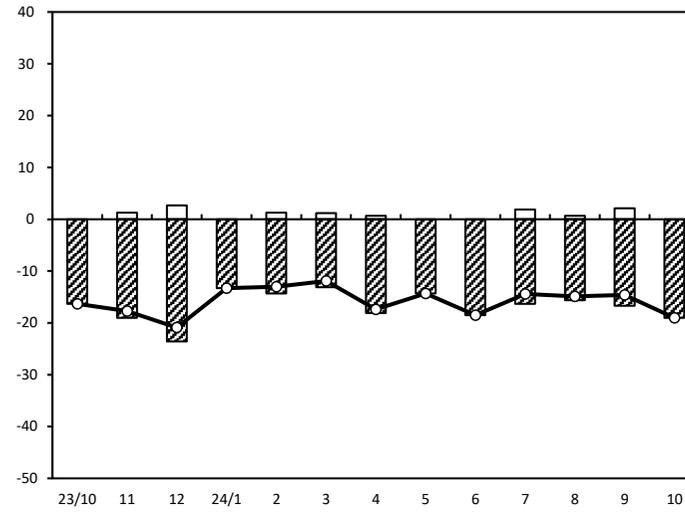
## 製 造 業【繊維】（前年同月比）

### 売上額



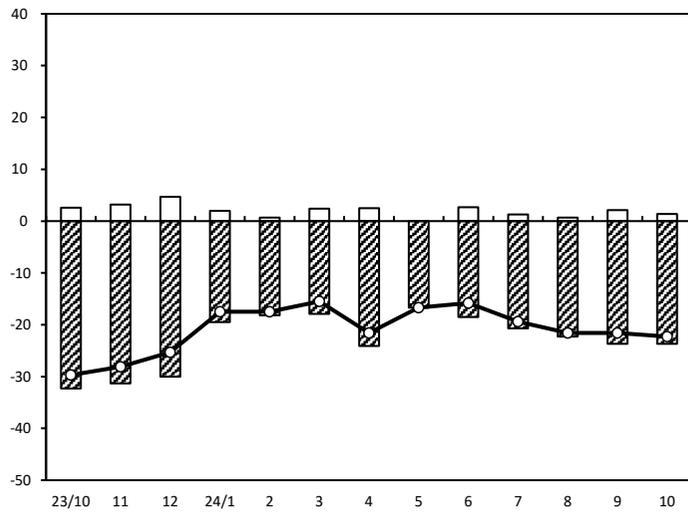
(年月)

### 資金繰り



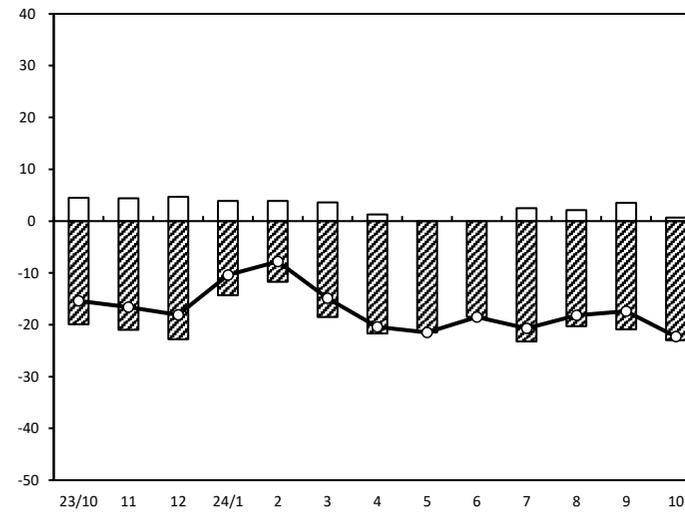
(年月)

### 採算



(年月)

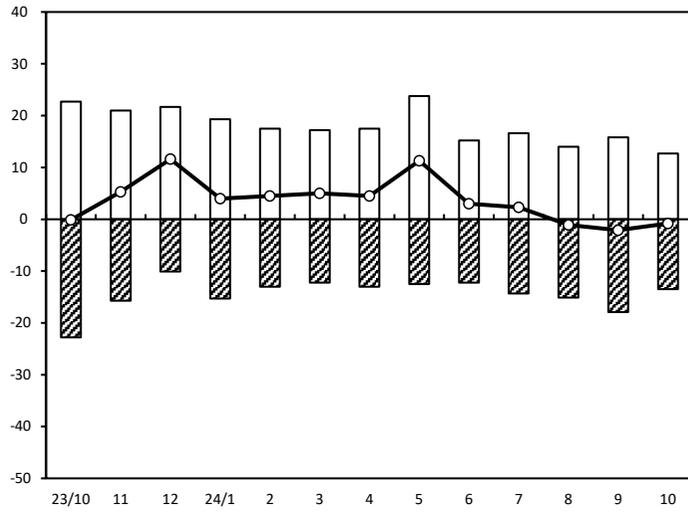
### 業界の業況



(年月)

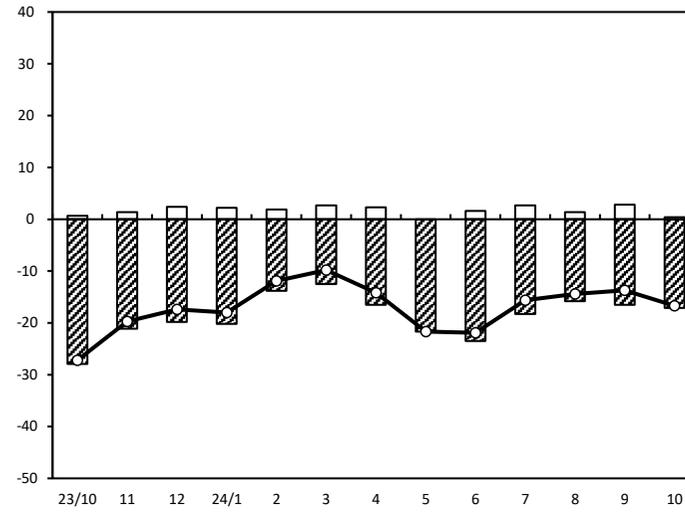
## 製造業【機械・金属】（前年同月比）

### 売上額



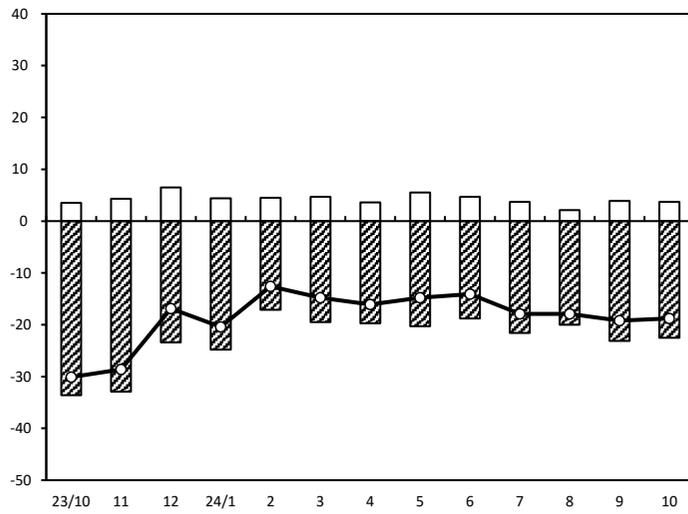
(年月)

### 資金繰り



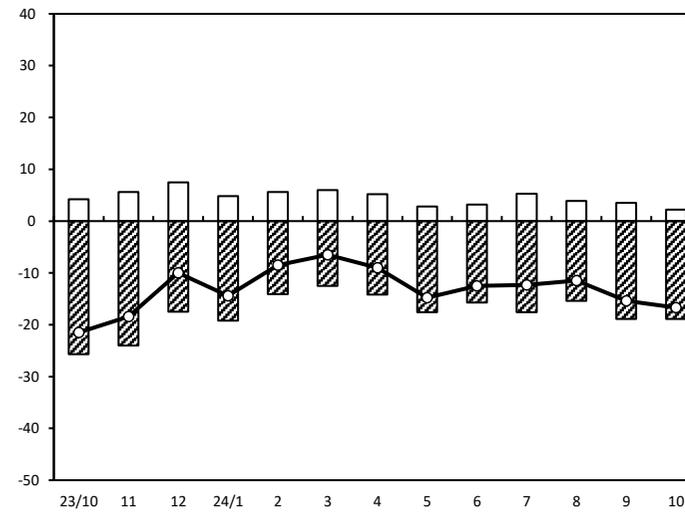
(年月)

### 採算



(年月)

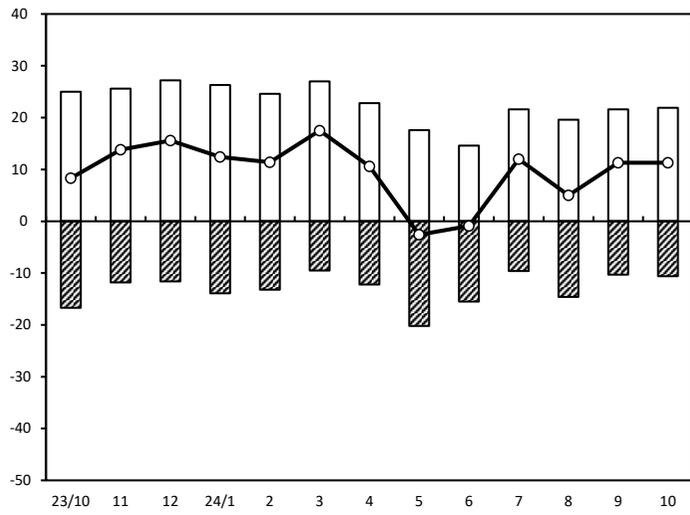
### 業界の業況



(年月)

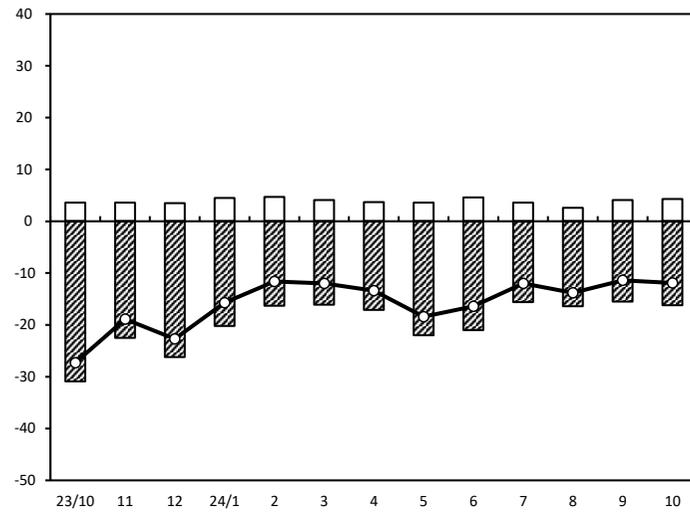
# 建設業(前年同月比)

## 売上額



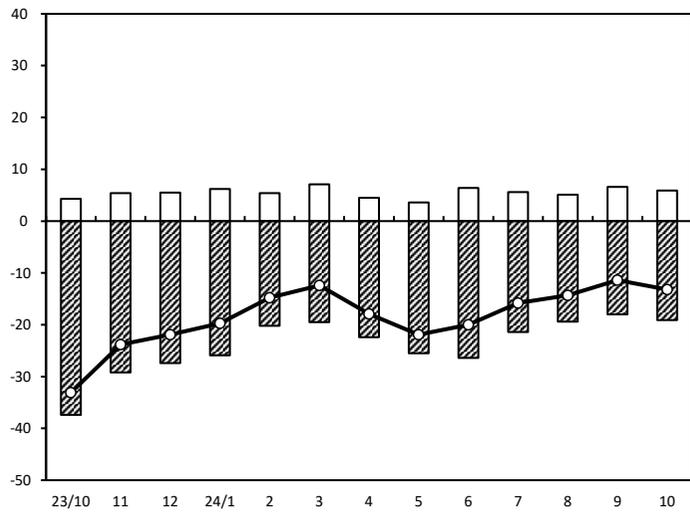
(年月)

## 資金繰り



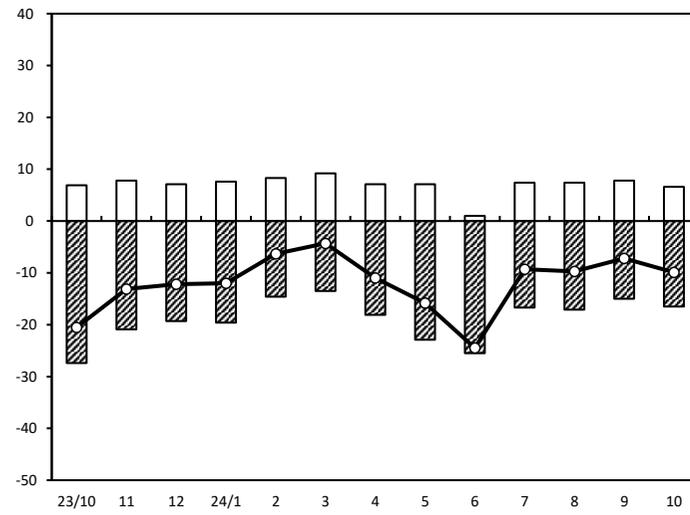
(年月)

## 採算



(年月)

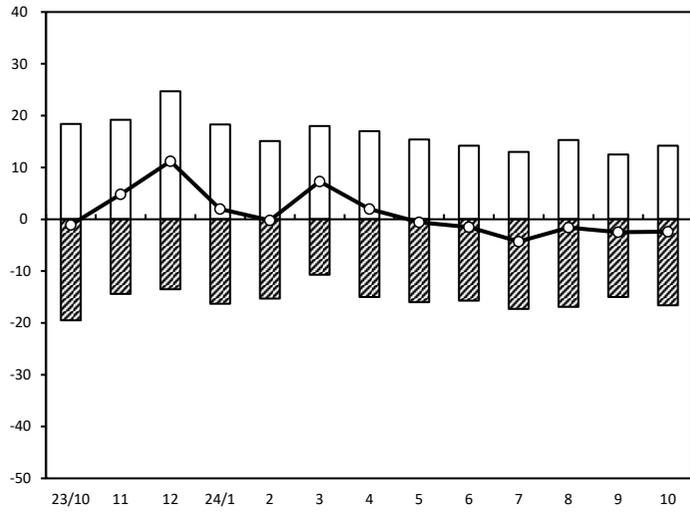
## 業界の業況



(年月)

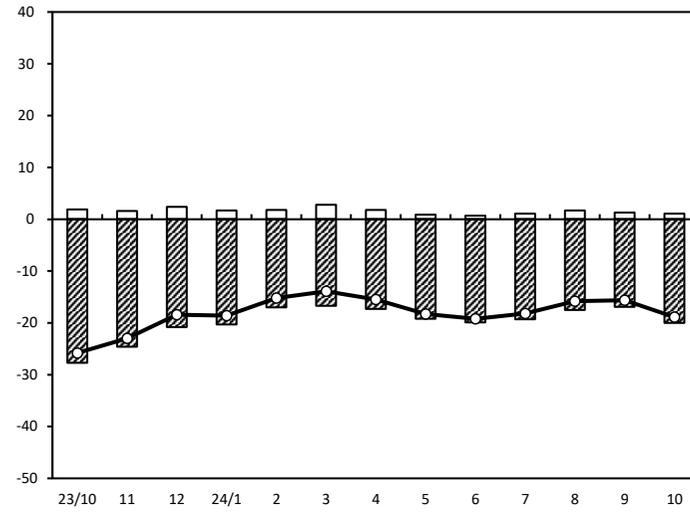
## 小 売 業(前年同月比)

### 売上額



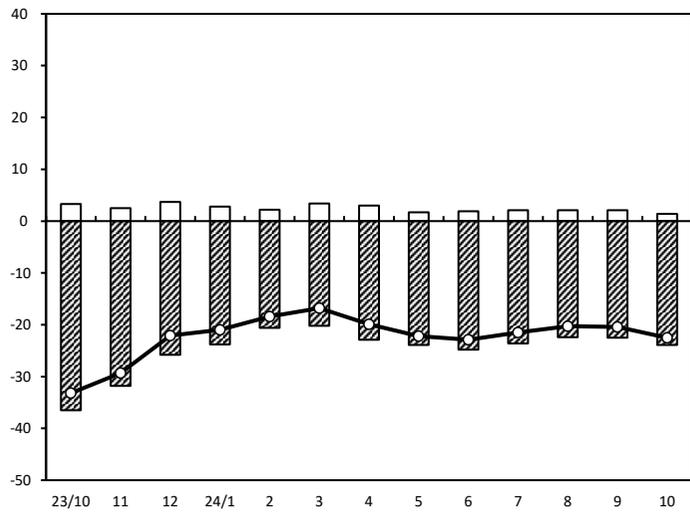
(年月)

### 資金繰り



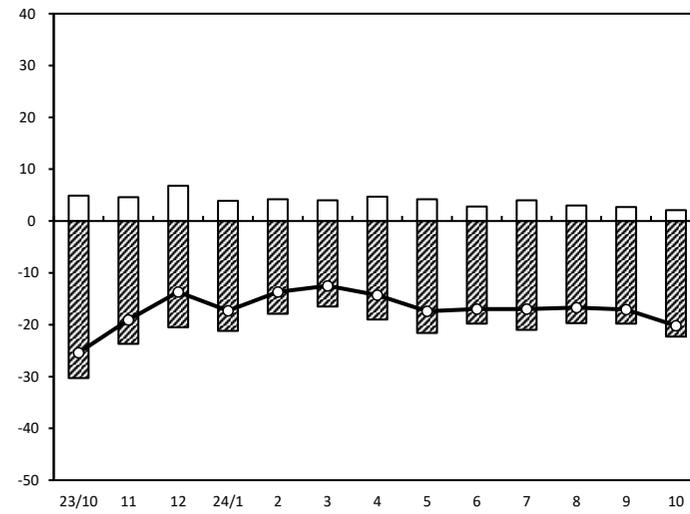
(年月)

### 採算



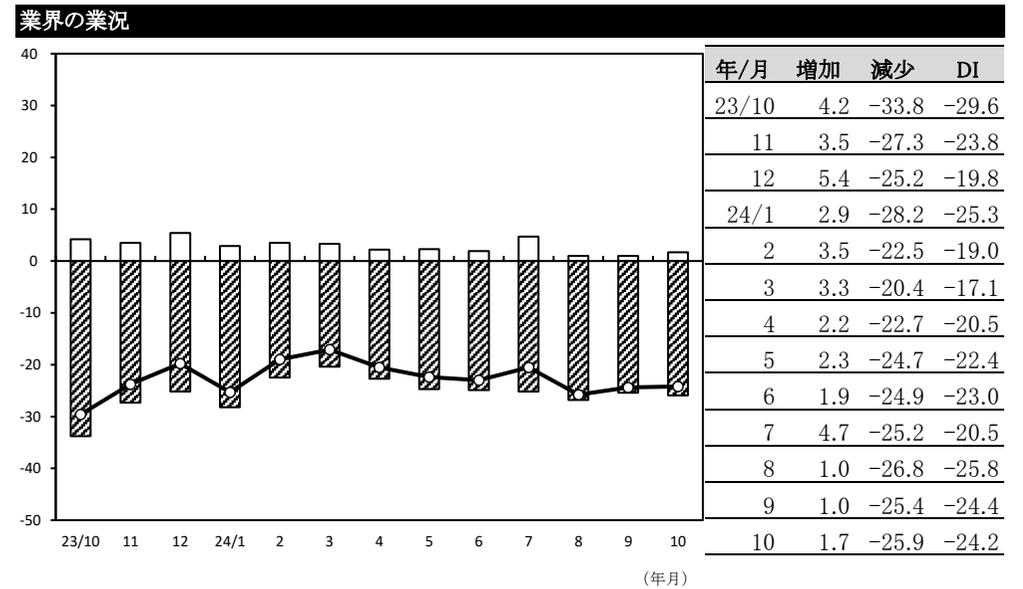
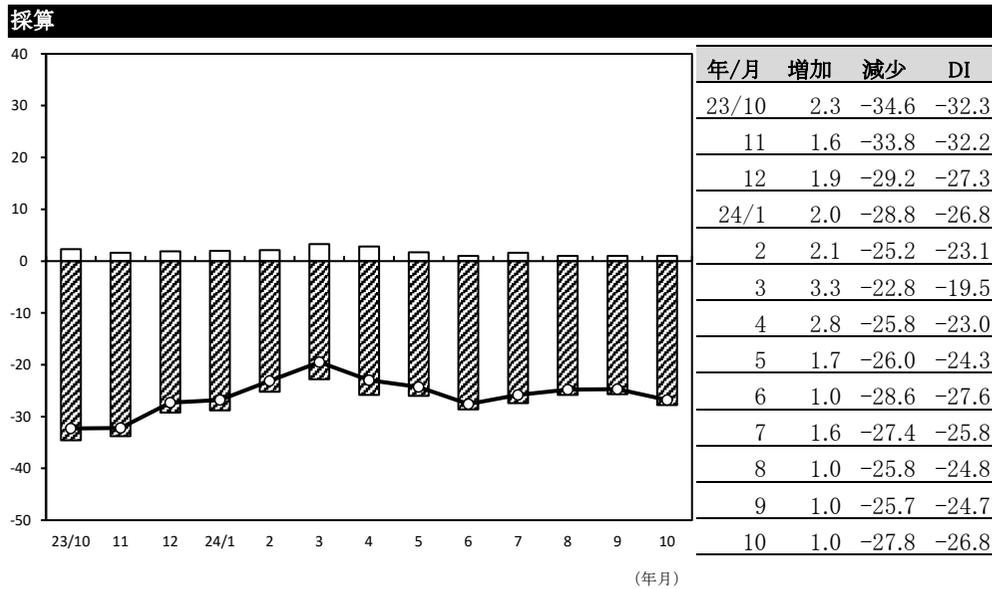
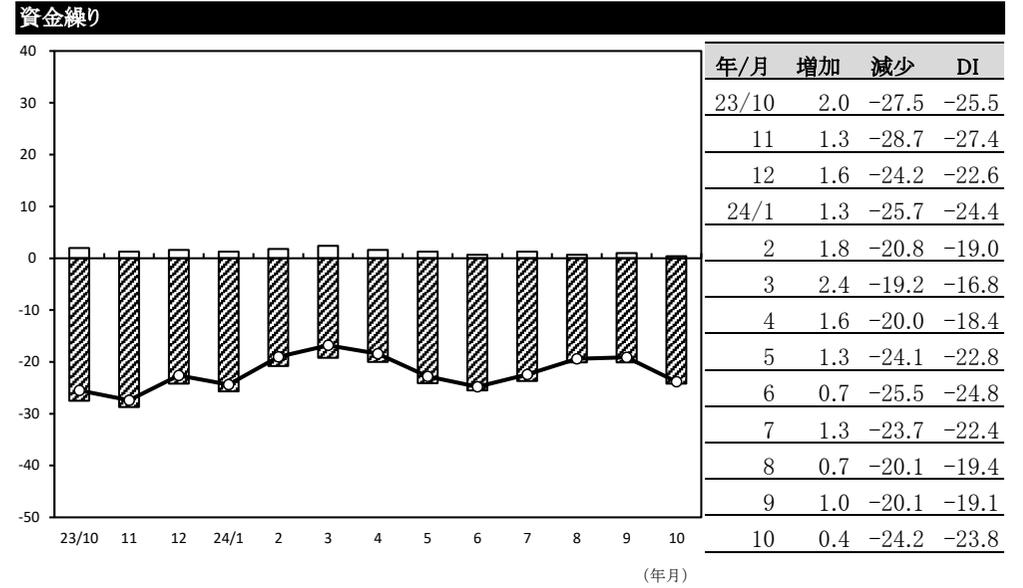
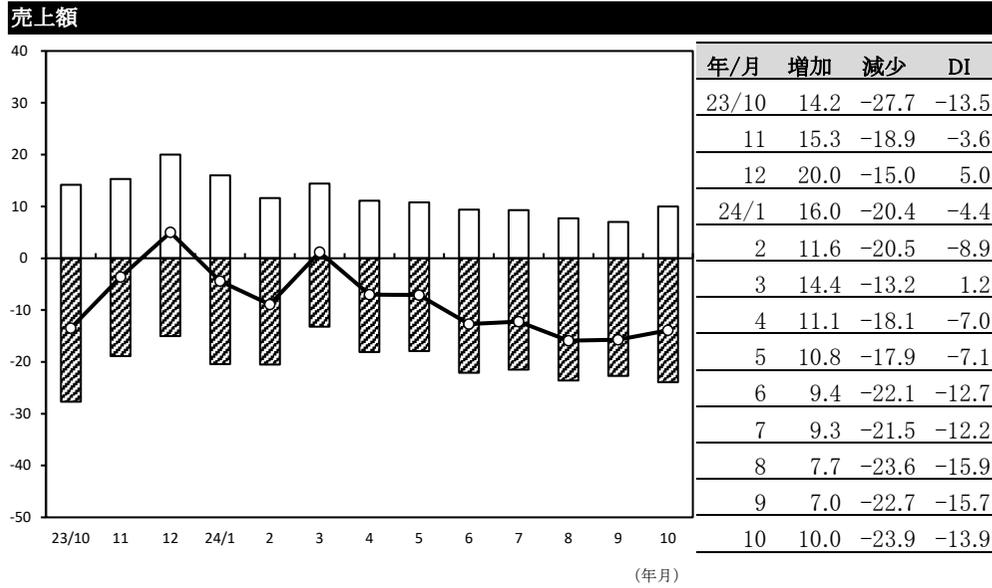
(年月)

### 業界の業況



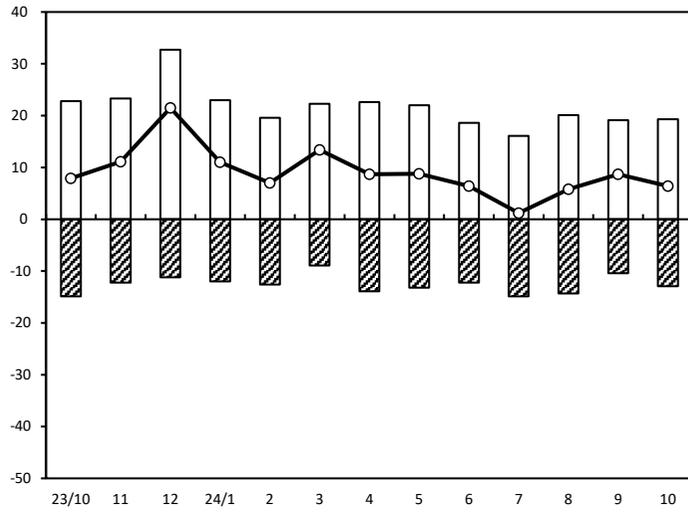
(年月)

## 小 売 業 【衣料品】（前年同月比）



## 小売業【食料品】（前年同月比）

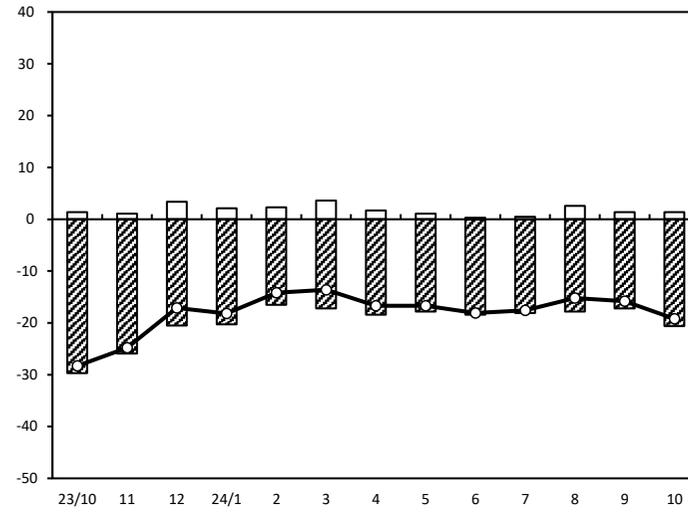
### 売上額



年/月	増加	減少	DI
23/10	22.8	-14.9	7.9
11	23.3	-12.2	11.1
12	32.7	-11.2	21.5
24/1	23.0	-12.0	11.0
2	19.6	-12.6	7.0
3	22.3	-8.9	13.4
4	22.6	-13.9	8.7
5	22.0	-13.2	8.8
6	18.6	-12.2	6.4
7	16.1	-14.9	1.2
8	20.1	-14.3	5.8
9	19.1	-10.4	8.7
10	19.3	-12.9	6.4

(年月)

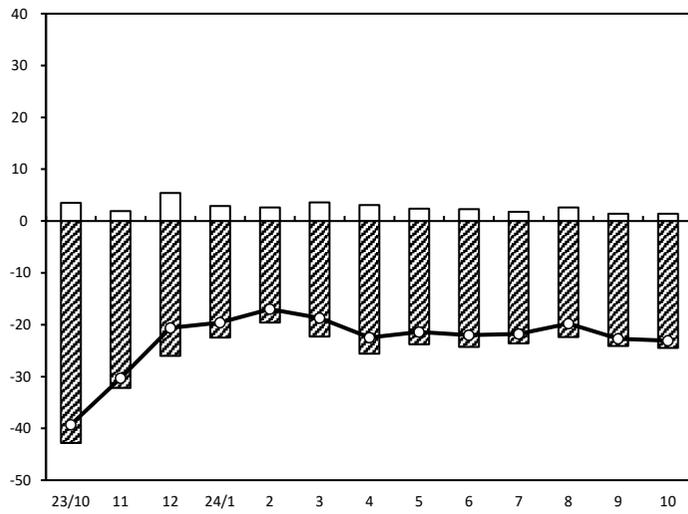
### 資金繰り



年/月	増加	減少	DI
23/10	1.4	-29.7	-28.3
11	1.1	-25.9	-24.8
12	3.4	-20.5	-17.1
24/1	2.1	-20.3	-18.2
2	2.3	-16.5	-14.2
3	3.6	-17.2	-13.6
4	1.7	-18.4	-16.7
5	1.1	-17.8	-16.7
6	0.3	-18.4	-18.1
7	0.5	-18.1	-17.6
8	2.6	-17.8	-15.2
9	1.4	-17.2	-15.8
10	1.4	-20.6	-19.2

(年月)

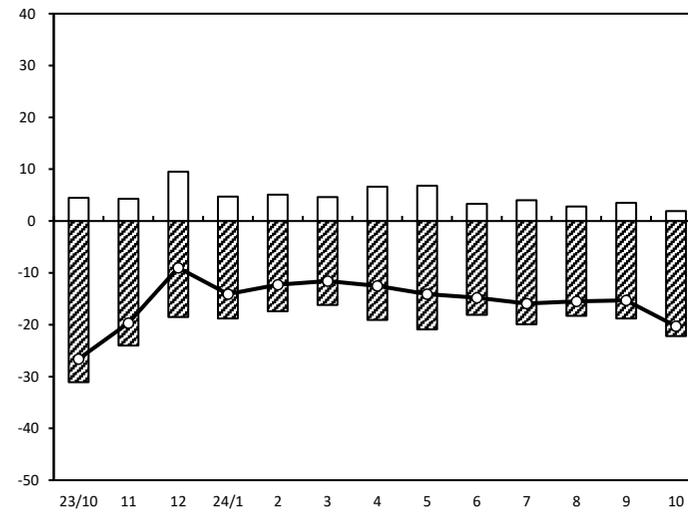
### 採算



年/月	増加	減少	DI
23/10	3.5	-42.8	-39.3
11	1.9	-32.2	-30.3
12	5.4	-26.0	-20.6
24/1	2.9	-22.5	-19.6
2	2.6	-19.6	-17.0
3	3.6	-22.3	-18.7
4	3.1	-25.6	-22.5
5	2.4	-23.8	-21.4
6	2.3	-24.3	-22.0
7	1.8	-23.6	-21.8
8	2.6	-22.4	-19.8
9	1.4	-24.1	-22.7
10	1.4	-24.5	-23.1

(年月)

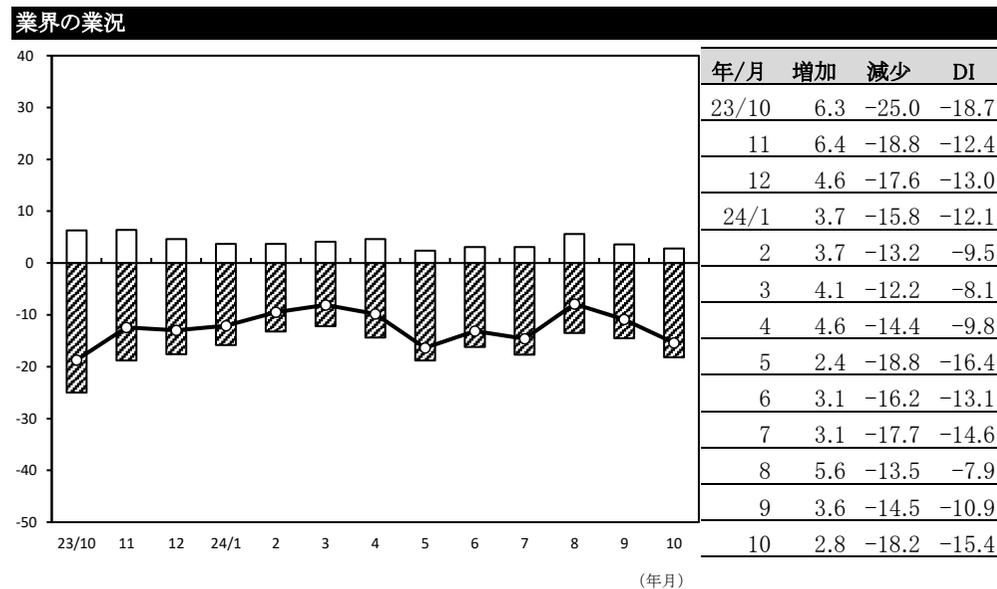
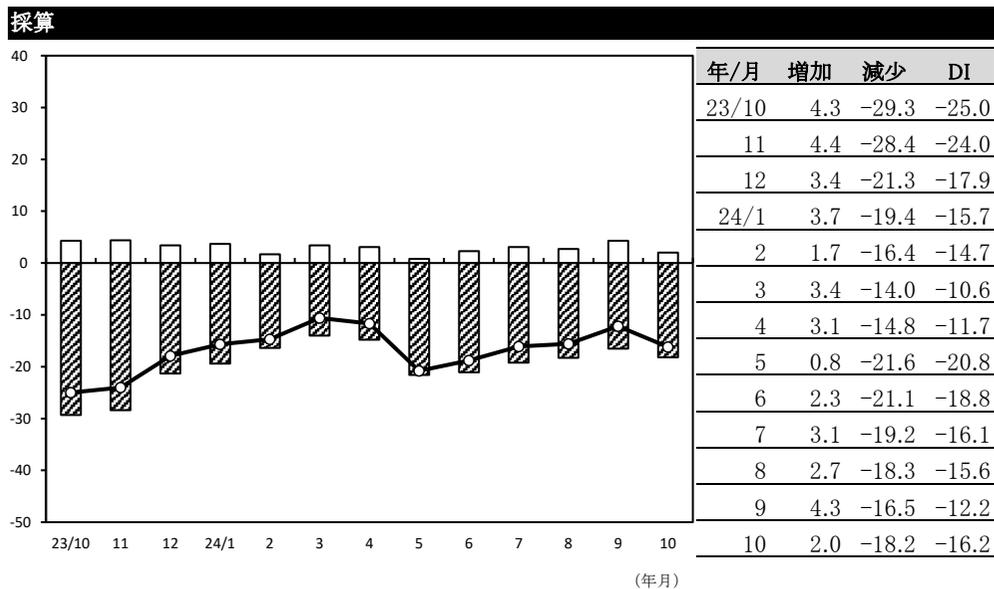
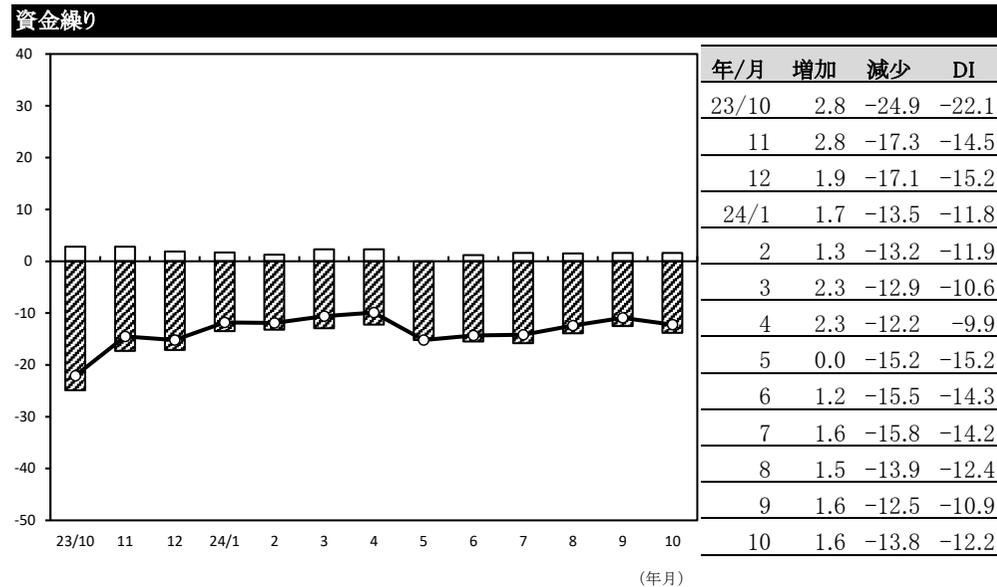
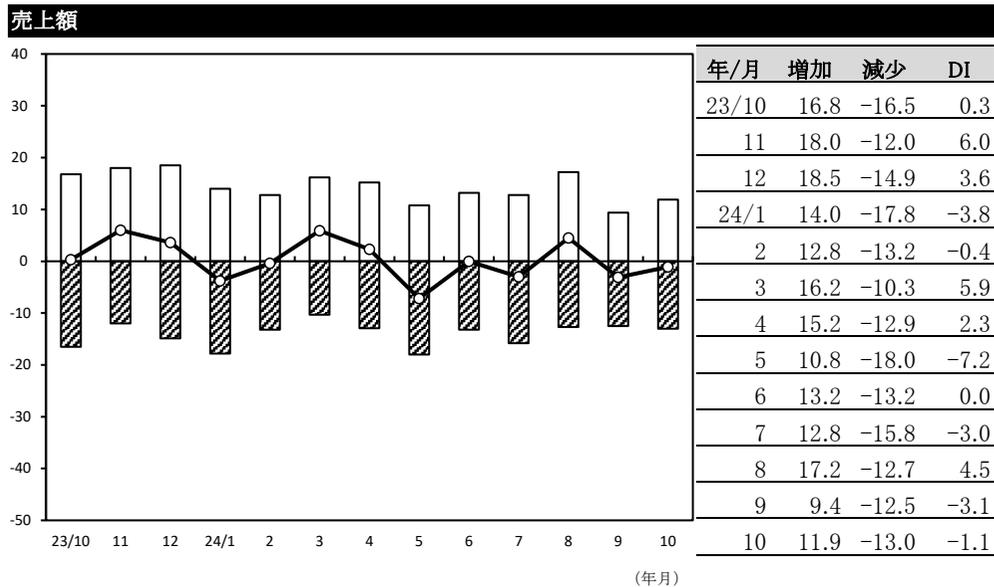
### 業界の業況



年/月	増加	減少	DI
23/10	4.5	-31.1	-26.6
11	4.3	-24.0	-19.7
12	9.5	-18.5	-9.0
24/1	4.7	-18.8	-14.1
2	5.1	-17.4	-12.3
3	4.6	-16.2	-11.6
4	6.6	-19.1	-12.5
5	6.8	-20.9	-14.1
6	3.3	-18.1	-14.8
7	4.0	-19.9	-15.9
8	2.8	-18.3	-15.5
9	3.5	-18.8	-15.3
10	1.9	-22.2	-20.3

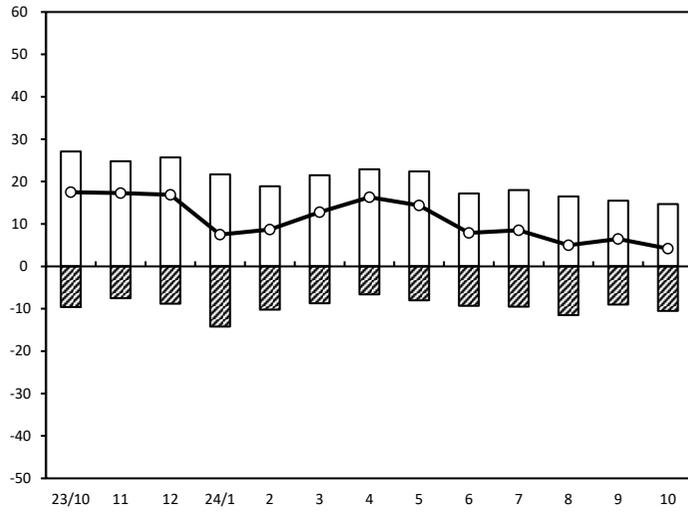
(年月)

## 小 売 業 【耐久消費財】（前年同月比）



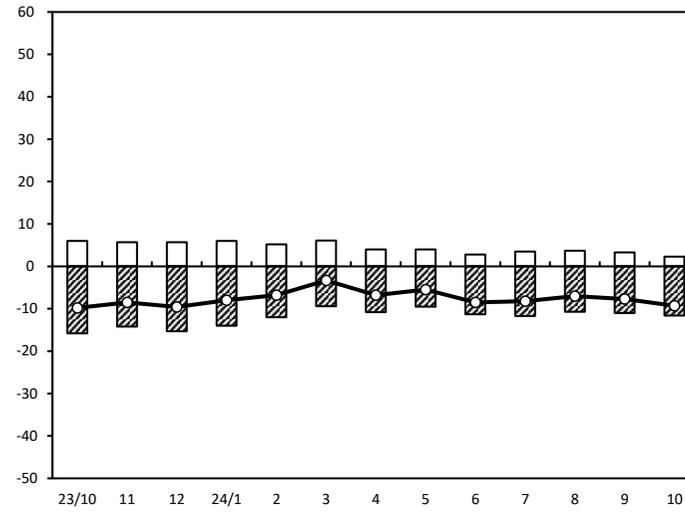
## サービス業(前年同月比)

### 売上額



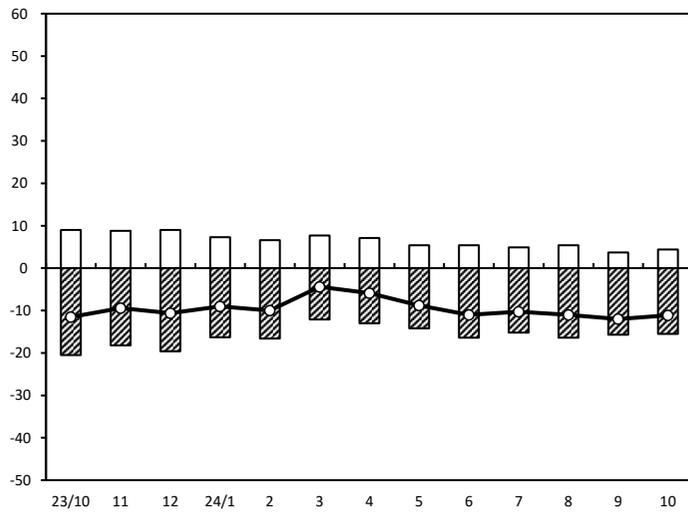
(年月)

### 資金繰り



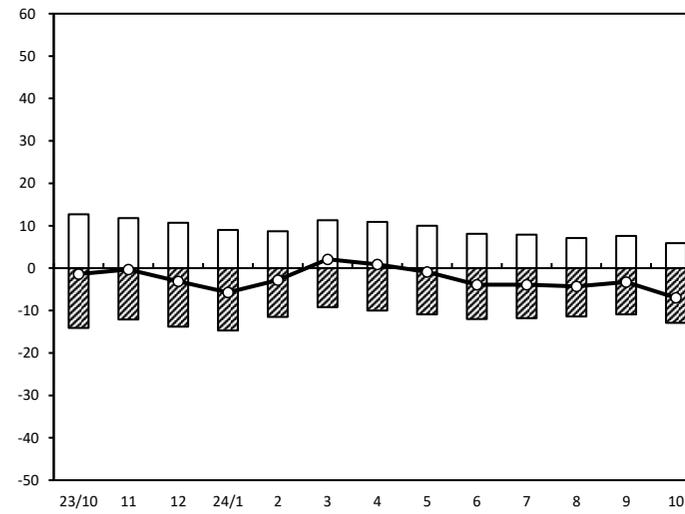
(年月)

### 採算



(年月)

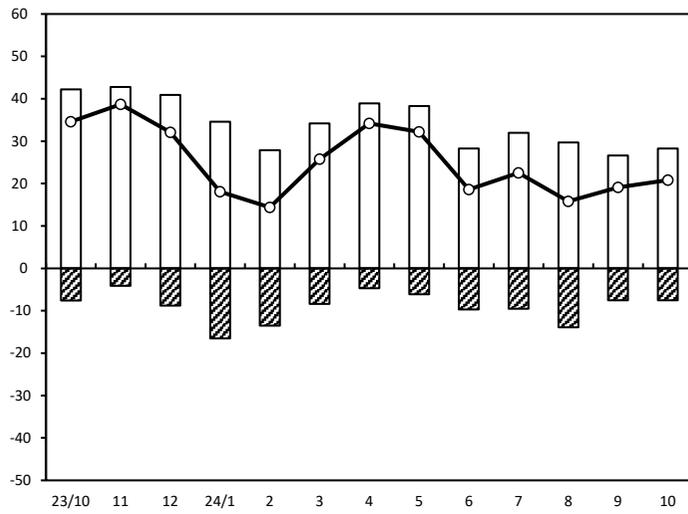
### 業界の業況



(年月)

## サービス業【旅館】（前年同月比）

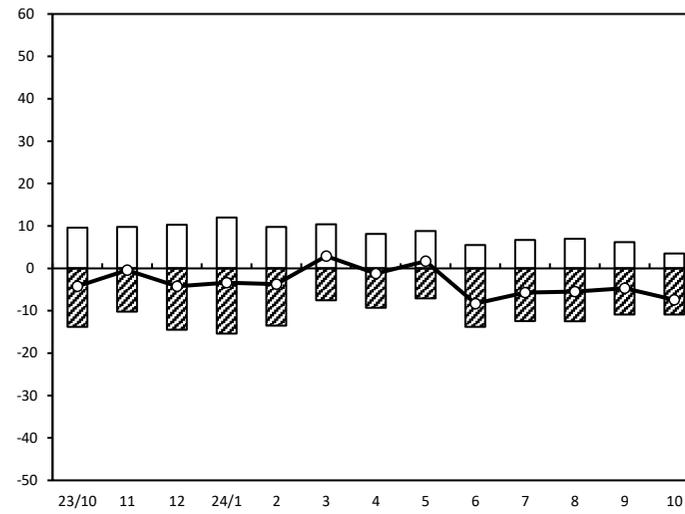
### 売上額



年/月	増加	減少	DI
23/10	42.2	-7.6	34.6
11	42.8	-4.1	38.7
12	40.9	-8.8	32.1
24/1	34.6	-16.5	18.1
2	27.9	-13.5	14.4
3	34.2	-8.4	25.8
4	38.9	-4.7	34.2
5	38.3	-6.1	32.2
6	28.3	-9.7	18.6
7	32.0	-9.5	22.5
8	29.7	-13.9	15.8
9	26.6	-7.5	19.1
10	28.3	-7.5	20.8

(年月)

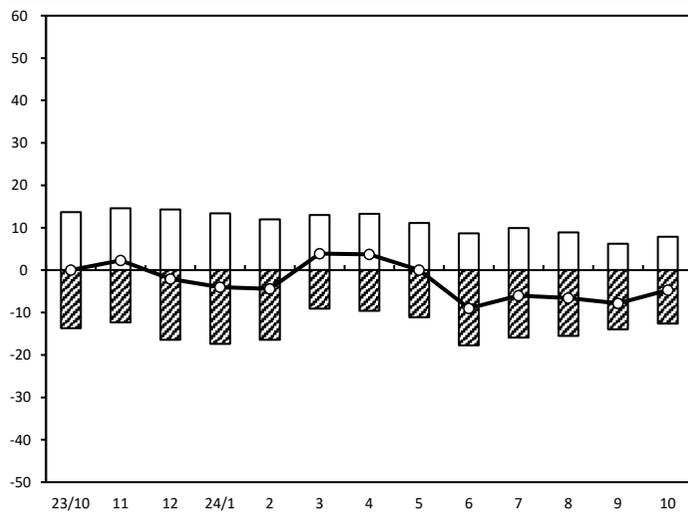
### 資金繰り



年/月	増加	減少	DI
23/10	9.6	-13.8	-4.2
11	9.8	-10.2	-0.4
12	10.3	-14.5	-4.2
24/1	12.0	-15.4	-3.4
2	9.8	-13.5	-3.7
3	10.4	-7.5	2.9
4	8.1	-9.3	-1.2
5	8.8	-7.1	1.7
6	5.5	-13.8	-8.3
7	6.7	-12.4	-5.7
8	7.0	-12.5	-5.5
9	6.2	-10.9	-4.7
10	3.5	-10.9	-7.4

(年月)

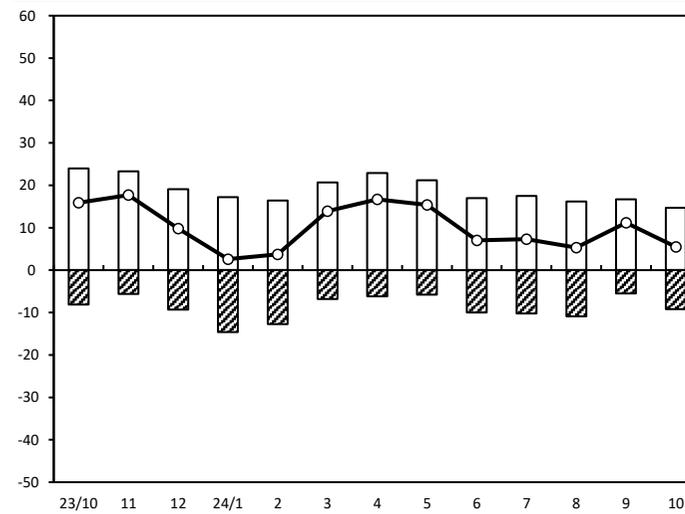
### 採算



年/月	増加	減少	DI
23/10	13.7	-13.7	0.0
11	14.6	-12.3	2.3
12	14.3	-16.4	-2.1
24/1	13.4	-17.4	-4.0
2	12.0	-16.4	-4.4
3	13.0	-9.1	3.9
4	13.3	-9.6	3.7
5	11.1	-11.1	0.0
6	8.7	-17.7	-9.0
7	9.9	-15.9	-6.0
8	8.9	-15.5	-6.6
9	6.2	-14.0	-7.8
10	7.9	-12.6	-4.7

(年月)

### 業界の業況

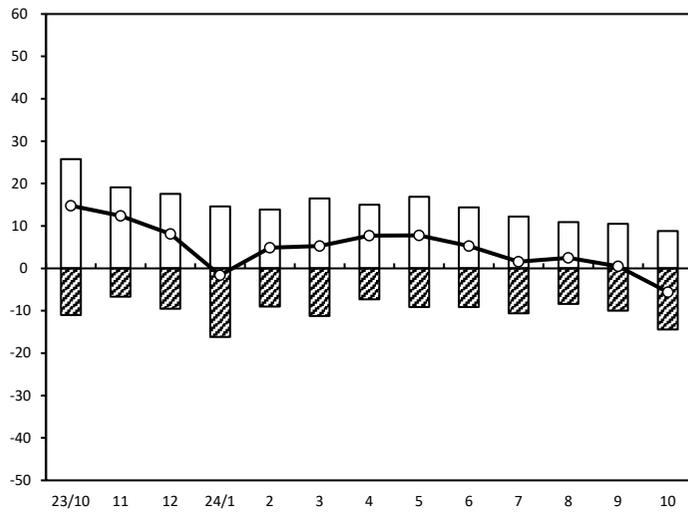


年/月	増加	減少	DI
23/10	24.0	-8.1	15.9
11	23.3	-5.6	17.7
12	19.1	-9.3	9.8
24/1	17.2	-14.6	2.6
2	16.4	-12.7	3.7
3	20.7	-6.8	13.9
4	22.9	-6.2	16.7
5	21.2	-5.8	15.4
6	17.0	-10.0	7.0
7	17.5	-10.2	7.3
8	16.2	-10.9	5.3
9	16.7	-5.5	11.2
10	14.7	-9.2	5.5

(年月)

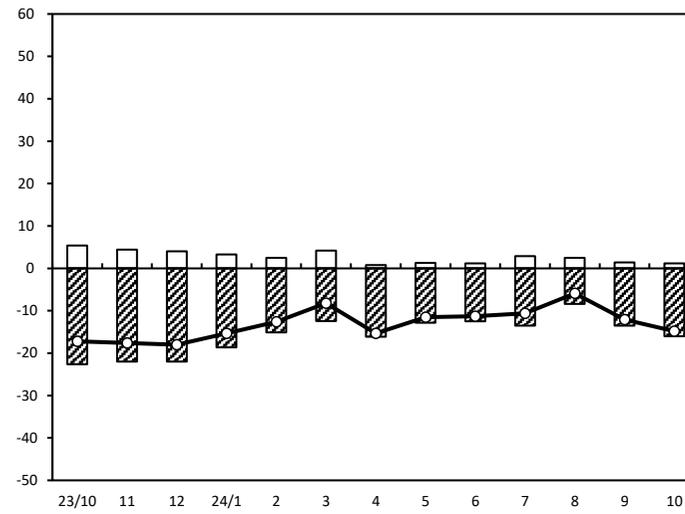
## サービス業【クリーニング】（前年同月比）

### 売上額



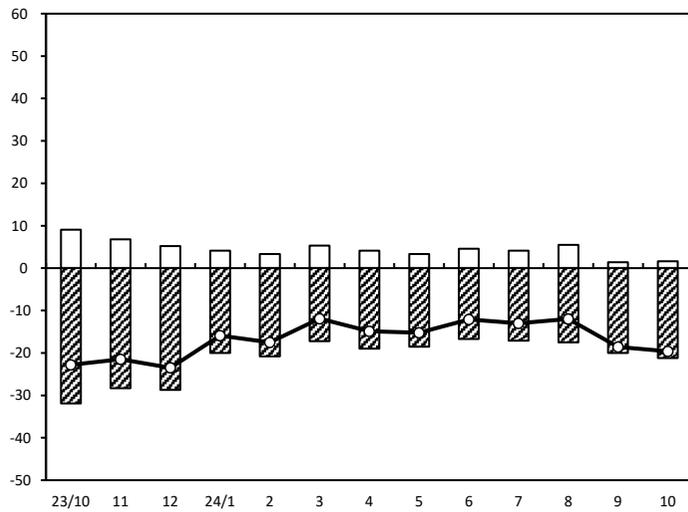
(年月)

### 資金繰り



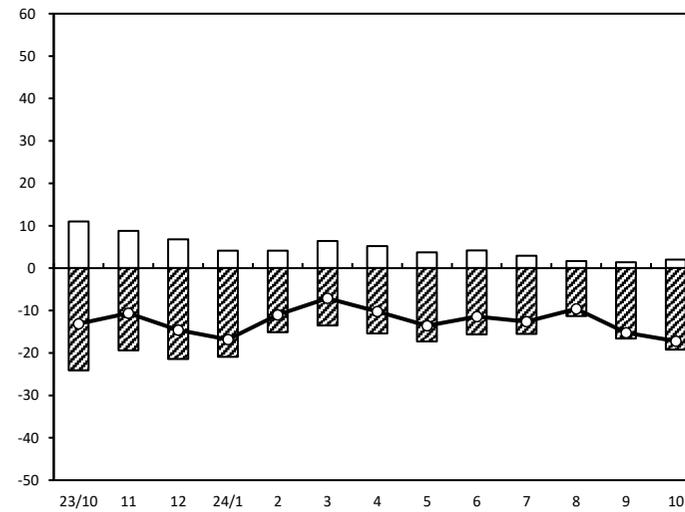
(年月)

### 採算



(年月)

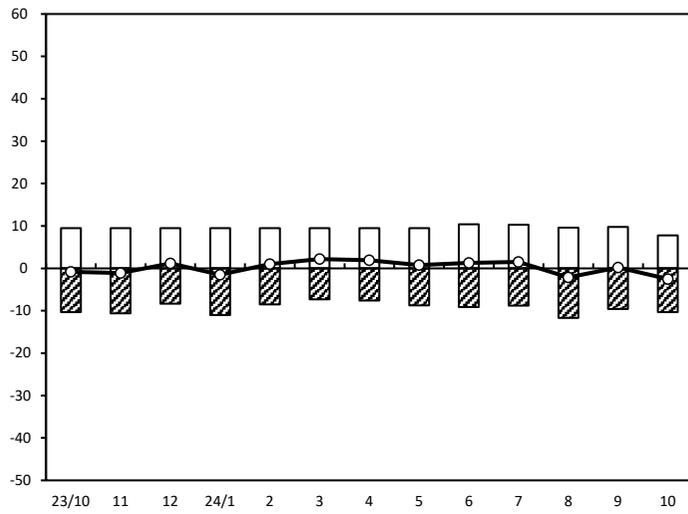
### 業界の業況



(年月)

## サービス業【理・美容】（前年同月比）

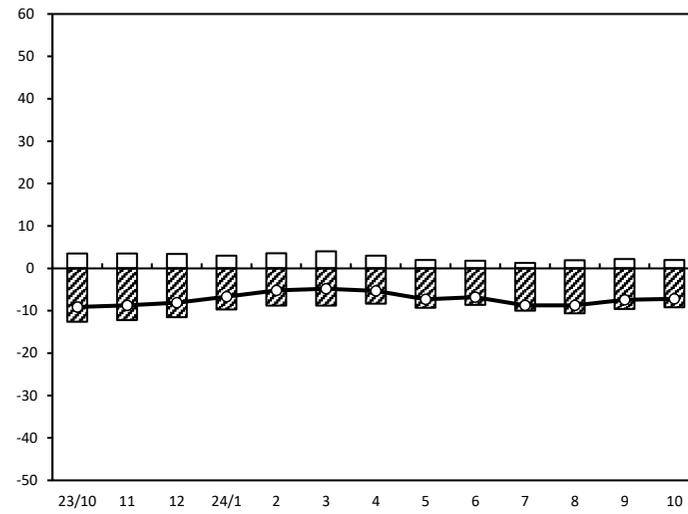
### 売上額



年/月	増加	減少	DI
23/10	9.5	-10.3	-0.8
11	9.5	-10.6	-1.1
12	9.5	-8.3	1.2
24/1	9.5	-11.0	-1.5
2	9.5	-8.5	1.0
3	9.5	-7.3	2.2
4	9.5	-7.6	1.9
5	9.5	-8.7	0.8
6	10.4	-9.1	1.3
7	10.3	-8.8	1.5
8	9.6	-11.7	-2.1
9	9.8	-9.6	0.2
10	7.8	-10.3	-2.5

(年月)

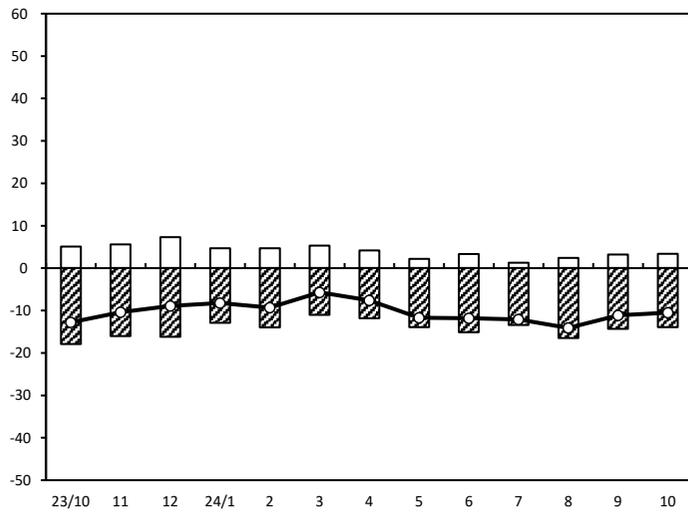
### 資金繰り



年/月	増加	減少	DI
23/10	3.5	-12.6	-9.1
11	3.5	-12.2	-8.7
12	3.4	-11.5	-8.1
24/1	3.0	-9.7	-6.7
2	3.6	-8.8	-5.2
3	4.0	-8.8	-4.8
4	3.0	-8.3	-5.3
5	2.0	-9.3	-7.3
6	1.8	-8.6	-6.8
7	1.3	-10.0	-8.7
8	1.9	-10.6	-8.7
9	2.2	-9.6	-7.4
10	2.0	-9.2	-7.2

(年月)

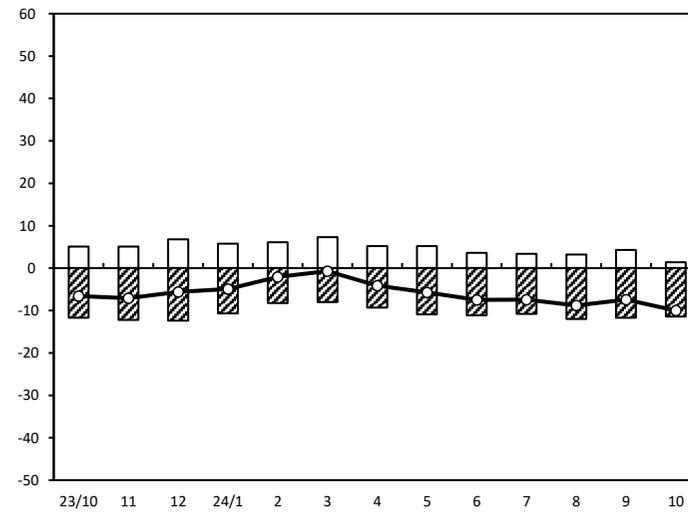
### 採算



年/月	増加	減少	DI
23/10	5.1	-17.9	-12.8
11	5.6	-16.0	-10.4
12	7.3	-16.2	-8.9
24/1	4.7	-12.9	-8.2
2	4.7	-14.0	-9.3
3	5.3	-11.0	-5.7
4	4.2	-11.8	-7.6
5	2.2	-13.9	-11.7
6	3.3	-15.1	-11.8
7	1.3	-13.4	-12.1
8	2.4	-16.5	-14.1
9	3.2	-14.3	-11.1
10	3.4	-13.9	-10.5

(年月)

### 業界の業況



年/月	増加	減少	DI
23/10	5.1	-11.7	-6.6
11	5.1	-12.2	-7.1
12	6.8	-12.4	-5.6
24/1	5.8	-10.7	-4.9
2	6.1	-8.2	-2.1
3	7.3	-8.0	-0.7
4	5.2	-9.3	-4.1
5	5.2	-10.9	-5.7
6	3.6	-11.1	-7.5
7	3.4	-10.8	-7.4
8	3.2	-12.0	-8.8
9	4.3	-11.7	-7.4
10	1.4	-11.4	-10.0

(年月)

## 小規模企業景気動向調査(10月期)における商工会経営指導員の主なコメント

\*コメントについては、経営指導員回答の原文を掲載。

### 1. 景気全般

#### <改善傾向を示すコメント>

仕入単価が上がっている分、価格転嫁し売上高も上昇しているように感じるが、やはり採算を取れるだけの価格転嫁はできていないように思われる。10月より最低賃金引き上げもあり、事業者としては人件費負担もさらに増えるため、利益確保のための価格転嫁が必要となると考える。

(秋田県かづの商工会)

消費者のインフレ慣れにより、必要な支出に関しては価格上昇が許容されている傾向が見られる。一方で、不要な支出を押さえる節約志向が強まっているように見受けられる。秋にはイベントが徐々に増えてきており、人出も多いように感じられる。事業者にとっては、消費者とのタッチポイントとなるため有効活用が期待される。

(栃木県壬生町商工会)

新たな需要を取り込んでいる事業者は好調である一方、従前の取引形態を継続している事業者は苦しい状況が続いている。

(千葉県香取市商工会)

宿泊関連の事業者を中心にサービス業、小売業は景気が上向きである。

(長野県小谷村商工会)

#### <悪化傾向を示すコメント>

仕入価格に関しては、高止まりではなく、引き続き上昇傾向にある。単価の引き上げに消費者がついてこれない業界に関しては、収益確保ができる商品展開等が急務。小規模事業者はコストカットを行う余地はほぼなく、原価管理の徹底・現商品の選定・商品のブラッシュアップを行い、いかにして客数を落とさず収益化できるように価格を再設定するかが課題になっている。

(山形県南陽市商工会)

原材料高騰に加え最低賃金の上昇により、利益の減少・設備投資の抑制が見込まれる。コスト上昇分を価格転嫁している事業所も見られるが、客離れを懸念してか、半数以上は価格転嫁できないでいる。

(茨城県桜川市商工会)

長引く猛暑の影響による季節需要の停滞や消費者の買い控えの傾向が強くなり、個人消費が停滞しており、景況感の悪化に繋がっている。また、長引く原材料費の高騰により採算性の悪化にも繋がっている。また、最低賃金の引き上げによる人件費の増加も収益の悪化に繋がっている。

(千葉県栄町商工会)

人材不足は企業規模や業種に関わらず深刻な問題となっている。特に地震以降は深刻な状況であり、建設現場や食品製造などの製造業で慢性的で、若年層の人出不足は深刻である。継続的な人出不足から、既存の従業員の負担が大きくなり退職につながる心配をしている。このままでは、新しいビジネス展開や業務拡大は望めないように思われる。

(石川県門前町商工会)

地方経済は若年層が東京に流出し、市場規模が縮小している(東京圏一極集中の問題)。円安により、商品の仕入れ値、電気ガス水道ガソリン代などの燃料費といった経費が跳ね上がり、資金繰りの悪化を招いている。よって、給料を上げる為に必要な原資を確保できない。東京にある大企業は価格交渉力があるが、地方の小規模事業者や中小企業は、多重下請け構造により価格交渉力がなく、また地方経済の低迷で業況は厳しい。

(岐阜県海津市商工会)

人手不足が常態化しているなか、10月から県内の最低賃金が1000円を超え、人材は給与の高い大手に流れてしまうことが容易に想像できる。小規模事業者にとっては人材の獲得が困難になっており、企業の将来も考慮すると経営者にとっては不安要素でしかない、という印象。時給が上がる、ということは夫の扶養の範囲内で働く、といったパート従業員の労働時間が減ることにつながるため、人材の確保がより深刻な問題になりかねない。

(静岡県沼津市商工会)

物価上昇に見合う賃金体系の実現、可処分所得のアップが求められている。いち個人では限界があり、この現状を打破するには政府による大幅な政策、減税等が必要な時期だ。

(岡山県備前東商工会 吉永支所)

物価上昇が続く中、人手不足も深刻化しているが、地域の小規模零細企業においては、人材確保のための十分な賃上げを行う余力がないケースも見られている。

(福岡県岡垣町商工会)

景気全般については、人手不足による生産性の悪化が継続している。人手不足による賃上げが行われているため、最低賃金の上昇による影響は限定的だが、今後の事業採算性については注意が必要かと思われる。

(長崎県対馬市商工会)

## 2. 製造業

### <改善傾向を示すコメント>

物価高騰により、仕入価格、経費支出増はあるものの景気動向は落ち着いていた。

(北海道新ひだか町商工会)

観光地のためトップシーズンとなり菓子屋などの菓子製造業についてはコロナ禍前の水準に近い業況となったと感じる。

(長野県小布施町商工会)

機械部品製造業では、輸送用機器や特装車において環境規制やエネルギー効率の向上に対応した部品の新たな需要の高まりに伴い、受注が増加している。一方で、こうした部品の製造には高性能な生産設備の導入が必要となっており、負担は伴うが投資効果は十分に期待できる。また、受注は旺盛だが、人手不足により要員確保が難しく、受注拡大に踏み出せないもどかしさがある。

(愛知県飛島村商工会)

食料品製造業は原材料価格高騰のため仕入単価が上昇。魚類に関してはウクライナ戦争や円安に加え不漁の影響もある。菓子類についてはコロナが完全に収まったおかげで贈答用の注文が復活してきている。機械金属製造業に関しては昨年、ウクライナ戦争の影響で受注はあっても部品が届かないことで売上が立たないことがあったが、今年は昨年程ではなく、業況は回復傾向である。県外や海外へ販路を開拓する取組も見られた。

(佐賀県佐賀市南商工会)

### <悪化傾向を示すコメント>

金属加工等を行う業者では物価高騰による価格転嫁はできており収益は好転しているが、人材不足により需要に対応できておらず、売上が減少している。

(宮城県東松島市商工会)

食品製造販売では相変わらず原材料費の高騰による利益の圧迫が続いているが、売上はやや好転している。経費の見直しやロスの削減など工夫しながら利益確保に努めている。

(群馬県しづかわ商工会)

食料品製造業者は材料の価格が上がるとのこと。機械金属製造業者は受注量が増えてきたが、人手不足に悩んでいる。また今後の最低賃金に対応できるか不安である。

(山梨県韮崎市商工会)

前年同月と比較すると仕入れ値が上がった部分を売値に反映しているため、売上は上がったように思われる。しかし、資金繰り等は不変であり採算が良くなったわけではない。10月からは、従業員の最低賃金の更新もあったことから、取引先の今後の動向にも注視しながら経営を続けていきたい。

(三重県伊勢小俣町商工会)

食品製造業では、秋の味覚を求める観光客等人的の動きが活発化し売り上げは増加傾向にあるが、原材料、資材の高騰により利益を圧迫している。繊維工業では、園児服を扱っているところでは需要が低迷しているため他品目の製品を扱うなど工夫をしているところもあるが、旅館等の外国人観光客向け商品を製造しているところでは、インバウンドの影響を受け売り上げは回復傾向にある。

(兵庫県丹波市商工会)

食料品製造の売上はやや悪い。気温が高い事や物価高騰、また、年末年始に向けての買い控えが要因と推測。原材料の高騰は止まる気配がなく、業界全体の状況は停滞気味。繊維工業は受注においては例年通りだが、小ロット受注が増加傾向で生産能率は伸び悩んでいる。従業員の高齢化が進んでおり、高齢による退職も増加傾向で、ハローワークを通じた募集を行っても補充が厳しい状況。機械・金属においては、工作機械など工業用機械・設備関連の受注・売上が増加。材料代の交渉の余地はあるが、材料支給型では交渉難なケースが多い。全体的な状況は悪化傾向が続いている。

(鳥取県鳥取市西商工会)

食料品製造業関連の事業者は、売上は順調。出荷したものは売り切れる状況。単価が安いので大幅な売上増加は見込めない。ただし、機械が老朽化したため更新が必要。金融機関と融資について相談中。繊維工業製造業関連の事業者は、前月と比べて大きな変動はなく、商社からの受注状況についても動きはない。最終消費地である米国の今後の市場環境を注視している。機械金属製造業関連の事業者は、対前月比で売上は特に大きな変化はない。仕入単価は上昇・高止まりしているが、商品価格への価格転嫁もできていない。そのような中で、最低賃金の大幅な上昇は、会社にとって負担となっている。

(岡山県みまさか商工会 勝央支所)

昨今の経済情勢により、包材の価格が高騰し、一部製造の廃止を余儀なくされるなど、厳しい状況が続いている。さらに、最低賃金の引き上げによる人件費の増加も重くのしかかっている。売上は微増しているものの、コスト圧力が利益を圧迫しているため、今後も一層の効率化が求められる。

(長崎県諫早市商工会)

仕入単価もさらに上昇している。さらに運送業における働き方改革の影響からか、配送を依頼していた運送業者の割引が無くなるなど、コスト増となっており、採算としてはやや悪化している。

(鹿児島県知名町商工会)

### 3. 建設業

#### <改善傾向を示すコメント>

修繕工事や改築工事が増加していると感じている。各種リフォーム補助金が後押ししている状況と思われる。

(青森県藤崎町商工会)

建設業については、個人客向けのリフォーム事業等、仕入単価の上昇分を見積金額に反映できている為、仕事が入れば利益を確保できる状況である。

(埼玉県東松山市商工会)

石材加工業では、墓じまいに関する相談や工事依頼が増えている。能登地域と繋がりがある建設業者は、地震や豪雨によって被災した建物等の修繕工事が継続している。

(富山県富山市北商工会)

本会の管轄地区においては、豪雨災害復興工事により特需が発生しており、数年間は仕事がある見込となっている。

(福井県南越前町商工会)

土木建築関連事業者は、仕入価格も上昇しているが、民間の受注が増えてきており採算が好転してきている。人材の確保が課題である。

(兵庫県佐用町商工会)

#### <悪化傾向を示すコメント>

原材料の価格高騰が続いていることから、行政(市)に対してスライド条項の適用を求める声がある。建築業は新築が少なくリフォームの方が多い。建設業では、地域差はあるが大雨被害に伴う災害復旧工事の受注が増加している。

(秋田県北秋田市商工会)

建設資材単価の高止まりや、職人等の人材不足は継続して見受けられるものの、公共工事の受注が堅調に推移し、何とか業界を下支えしているような状況にある。労務単価の引き上げも見られるなど、更なる経費の増大に繋がり、利幅は少なくなっているようである。民間工事に関しては受注も減少傾向にある。

(福島県会津美里町商工会)

人手不足から雇用を確保するために賃金上昇を行うが、やはり集まらず苦戦している。資材価格の上昇傾向は続いており利益は逼迫している。

(茨城県八千代町商工会)

工事の発注は増加しているが、採算が合わず受注を見送るケースも多い。さらには、10月の最低賃金引き上げにより今後も厳しい状況が予想される。

(群馬県富士見商工会)

業界全体として、仕事は少なくなってきた。貸別荘ブームが落ち着き、需要が減ってきていることが要因か。

(千葉県南房総市内房商工会)

公共工事が今年度発注数が減少しており、同業者の取り合いとなっている。民間工事は、ガソリンやセメント、生コン等の仕入れ値が上昇しているため利益率が減少。給与の支払いを鑑みると規模の小さい民間工事は割に合わないケースが多い。

(岐阜県高山北商工会)

リフォーム工事の受注はあるが新築工事の受注はほとんどない。原材料費高騰。土木建設業は、業者により受注にバラつきがあるものの仕事はある状況。

(静岡県川根本町商工会)

公共工事の件数が減少しているため、今後の売上についてはやや不安。また、公共工事獲得に向けてICT施工が必須となってきたが、事業所によってはICT化が遅れており、早急に対応が必要な状況にある。

(京都府福知山市商工会)

農道の修繕など小規模な公共工事の入札が多い。公共工事について、着手前の資料作成や工事完了後の報告書などの書類が年々増えており、事務処理に要する時間が増えている。民間工事は追加工事分の費用を貰えないことも多いが、公共工事は追加工事分も支払って貰えるため、利益を確保することが出来る。材料価格は高止まりしている。

(岡山県瀬戸内市商工会)

昨年に比べ仕入価格は平均15%上がり、コンクリート製品は2倍近く上昇している為、1割程の値上げを実施した。業界の業況としては依頼件数自体が減りつつあるものの、それを上回る形で同業者の高齢化による廃業が相次いでいる為、一事業者当たりの依頼数は変わらない。

(佐賀県唐津上場商工会 経営支援センター)

建設コストの上昇に伴い、新規契約の獲得が難航している。また、人手不足が深刻化しているものの、賃上げが収益に追いつかず、積極的な雇用確保に結びついていない状況である。

(長崎県松浦市福鷹商工会)

## 4. 小売業

### <改善傾向を示すコメント>

イベントの開催や行楽シーズンなどの人流増加の影響により売上増加傾向にあった。

(福島県田村町商工会)

衣料品小売業に関しては、特に変化はないが、仕入単価はやや上昇傾向にある。急に寒くなったことにより、冬物の売上が好調である。

(栃木県うつのみや市商工会)

小売業について、コロナ禍以降下がりが続いていた景況が少し改善してきた。要因は、価格転嫁が進んだこと、プレミアム商品券事業等の施策が功を奏していると思われる。

(京都府木津川市商工会)

衣料品小売・食品小売においては、原材料仕入価格アップが続いているが、適切に価格転嫁を行なっている事業者が増えた。消費者の目立った買い控えは見られない様子である。

(岡山県真庭商工会)

物価高騰であるが一部、価格転嫁できている事業者は利益をある程度確保できていると思われる。価格転嫁できていないところは依然として厳しい状況である。

(鹿児島県伊佐市商工会)

### <悪化傾向を示すコメント>

衣料品…季節が切り替わり、徐々に秋物衣料への需要が高まっており、買い控えが緩和傾向にある。一方で、地区内の同業者が相次いで閉店するらしい噂を耳にし、まだまだ明るい話題がない。食料品…売上は大きくは変わらず大体同じ見込。仕入も肉の価格は落ち着いているが、野菜が天候不良の影響を受け、今後高騰する可能性があることを危惧している状況。耐久消費財…前年同月より売上は減少している。当地域では高齢の顧客が多いため、家具等買い控えが大きい。仕入価格に関しては外国製品が多く、送料も値上がりしているため、仕入価格は上昇している。大手家具店には無い、きめ細かなアフターサービスを心がけている。

(秋田県由利本荘市商工会 矢島支所)

衣料品小売関連の事業者は気温が高い日が続いたため、秋物の衣料品売上が減少したとのこと。食料品小売関連の事業者は顧客がスーパーなどに流れ、仕入れ価格の上昇と併せ厳しい状況、同業者で廃業も出ている。自動車販売関連の業種では、大手ディーラーやオンライン販売との価格競争が激化しており、利益の確保が難しくなっている。

(栃木県那珂川町商工会)

衣料品小売業：冬物需要により、売上は増加傾向も仕入価格も上昇しており、景況判断は予断を許さない状況。食料品小売業：価格転嫁も一定程度進み、業況はわずかに回復しつつあるも、今後の物価上昇による影響が懸念される。耐久消費財：消費者の節約意識は強く、仕入価格の上昇もあいまって先行きは不透明。

(東京都昭島市商工会)

野菜の価格変動が激しく、新米が出始めたが依然として販売価格が高騰している。野菜類、米等の仕入単価が高騰していた。高齢者の多い地域なので、例年並みであるが、秋服の売れが悪い。残暑が続いたせいか秋冬物が売れていない為、売上が例年より少ない。猛暑の影響でエアコン設置工事が間に合わず、10月もエアコン取付工事に追われていた。

(静岡県天竜商工会)

衣料品小売業では、物価の高騰などの影響により、消費者が消費行動に慎重になっており、不必要な商品を購入しない傾向が見られる。また、社会情勢の不透明さが消費者に不安を与えている。食料品小売業は、昨年の商店街振興施策(商店街参加店のみで使用できる商品券)がないため、売上増加につながらない。耐久消費財は、車両販売が引き続き不調。コロナ前に比べ納期が長期化したことやコロナ禍の移動手段が公共交通からマイカーに移り買い替えサイクルが前倒しになった影響だと言われている。

(兵庫県新温泉町商工会)

野菜、果物は温暖化により品不足となっており商品単価が上昇している。また、大型店の進出等の影響で近隣市町村で小売スーパー等の閉店が相次いでいる。商工会で発行しているデジタルプレミアム付商品券が販売促進の一助となっているが全体的に業況は悪い。

(福岡県みやま市商工会)

小売業については、日常的に消費者が購買を行うことなどから、物価高騰の影響は受けているものの、業況の悪化が顕著になっている状態ではない。ただ、このまま物価高騰が長期化すれば、売上も徐々に減少していくことは明白であり、事業所自身の努力では解決できないものであるため、今後厳しい状況が想定される。

(長崎県西そのぎ商工会)

商品仕入れ単価の上昇がつづく。顧客の来店数はかわらないが、商品単価の上昇により売上が増えているが、買い上げ点数は抑え気味で、消費者も不必要な支出を抑え物価高に対応している。

(鹿児島県鶴の町商工会 野田支所)

## 5. サービス業

### <改善傾向を示すコメント>

紅葉シーズンが始まり観光客が大勢当地を訪れている。平日から県外ナンバーの観光バスが停まり、土産物店や飲食店にはコロナ前程度の来客数になっている店舗もある。

(秋田県仙北市商工会 田沢湖支所)

美容関連事業者について、代表者の人柄の良さや高い技術力が好評で顧客離れは少なく、売上は堅調に推移している。

(福井県福井東商工会)

旅館業は、県内大規模イベント(ねんりんピック)の開催で宿泊客多数であった。高齢層で土産物を大量に購入される方が多く、日に何度か土産菓子業者が往復することもあった。11月にカニが解禁になる為、問合せが増えている。洗濯業は、祭り関連用品のクリーニング受注が増えている。ただ、夏が長く気温が高い時期が続いたため、衣替えの時期が例年より後ろ倒しになっている印象である。理・美容業は、売上は安定しているが、顧客の高齢化で常連客は減少傾向である。近隣の同業と情報共有を密に行うなどしている。

(鳥取県北栄町商工会)

旅館・宿泊所関連の事業者は、国内観光・インバウンド需要は共に好調で業界については引続き好調。宴会等のイベントも好調で業界の状況は良好である。理美容業関連の事業者は、料金設定を高くしたら、来店頻度が落ちたお店もある状況になっている。

(熊本県阿蘇市商工会)

生活関連サービス業については、さほど変化はみられない。旅館・宿泊所に関しては、町内において今月が1年の繁忙期の最終月であった。登山客や外国人観光客は前年同月比で20%程度は増えていると思われる。同時通訳機等の設備導入を検討する事業者が増えてきている。

(鹿児島県屋久島町商工会 安房支所)

### <悪化傾向を示すコメント>

洗濯業については、町内に2件ある事業所のうち1件が廃業となり、町外事業所の利用が増えている状況である。また、米不足自体は解消されたが他地域と同様に米の価格は高騰したままであり、宿泊業や飲食業などは採算に苦労している状況である。

(北海道枝幸町商工会)

宿泊業においては、以前は登米市の伊豆沼に飛来する野鳥の観測や、工事関係者など多くの方が宿泊していたが、栗原市合併で工事関係者は激減し、コロナ禍で野鳥観測者も激減した。10月の宿泊者は6名だけであり、廃業を視野に入れているが、地域内唯一の旅館としてなんとか継続したいと思っている。

(宮城県栗原南部商工会)

旅館業は、現場作業員の長期滞在が多く、インバウンド需要については0.5割ほどありました。洗濯業では、個人利用が減少しつつあり、特にクリーニング需要の落ち込みが見られました。理美容業では、地元住民を中心に安定した来客があるものの、物価上昇により客単価の維持が難しい状況です。全体として、各業界で地元需要に応じた工夫が求められています。

(茨城県稲敷市商工会)

価格転嫁は行っているが、サービス業は人件費の割合が高く、人件費の上昇は価格に転嫁しにくいいため、十分な価格転嫁には至っておらず、利益の圧迫要因となっている。

(新潟県寺泊町商工会)

宿泊業については、旅行客数の増加により稼働率はアップしている。一方で、人手不足が大きな課題。クリーニング業は商材価格の上昇分について価格転嫁が出来ていない状況。

(石川県津幡町商工会)

宿泊業については、食材を始めとした仕入や光熱費などの経費負担が大きい。売上に関しては、トライアスロン大会による需要増で閑散期を補っている様子。洗濯業も同様。理美容業は大きな変動なし。

(静岡県河津町商工会)

旅館では、継続的に利用される常連客もあり、利用客数に変動はあまりない。天候の良い日も続き、個人客の旅行意欲は高まっている。洗濯では、石油価格の高騰により仕入れ単価にも影響が及んでいる中、賃上げに伴い、資金繰りは前年度に比べ厳しい状況にある。理・美容では、価格据え置きのまま経営を続けているが、一部の顧客からは値上げはやむを得ないとの理解を得ている。ただ、顧客の半数以上が年金暮らしのため、顧客が離れないよう慎重な判断が必要である。

(鳥取県大山町商工会)

宿泊業では、コロナ前に比べてお遍路が戻ってきている感があるが、売上はそれほど増加していない。美容院では、顧客に変動は無いが、カラー剤などが値上がりしている。利益はほぼ横ばい。

(香川県高松市中央商工会)

物価高騰により住民の生活が厳しい中、洗濯業や理美容業などの利用回数が真っ先に見直され、売上減少の傾向がみられる。宿泊業においては、同じく物価高騰が厳しい中、国内の旅行需要も縮小傾向にあるほか、都市部のような目に見えたインバウンドの増加が見られず、耐えている状況にある。

(鹿児島県志布志市商工会)